

(19) 世界知的所有権機関  
国際事務局(43) 国際公開日  
2002年8月29日 (29.08.2002)

PCT

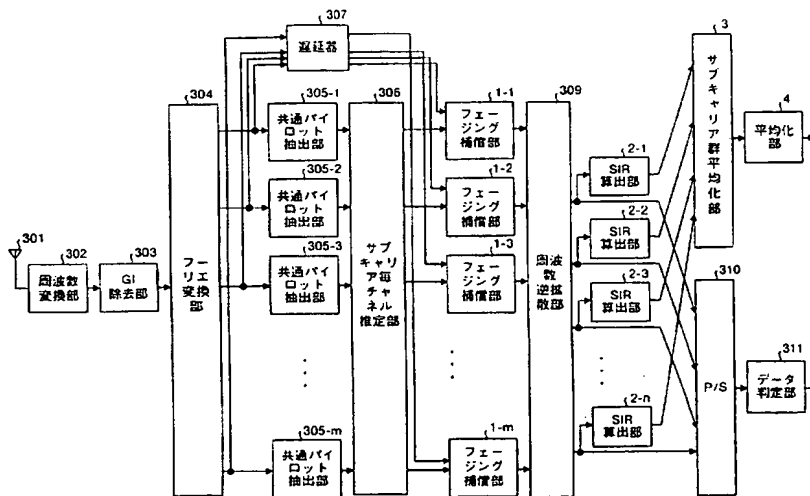
(10) 国際公開番号  
WO 02/067478 A1

- (51) 国際特許分類<sup>7</sup>: H04J 11/00, 13/04 (72) 発明者; および  
(21) 国際出願番号: PCT/JP02/01245 (75) 発明者/出願人 (米国についてののみ): 佐野 裕康  
(22) 国際出願日: 2002年2月14日 (14.02.2002) (SANO, Hiroyasu) [JP/JP]; 〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号三菱電機株式会社内 Tokyo (JP).  
(25) 国際出願の言語: 日本語 (74) 代理人: 酒井 宏明 (SAKAI, Hiroaki); 〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関三丁目2番6号東京倶楽部ビルディング Tokyo (JP).  
(26) 国際公開の言語: 日本語  
(30) 優先権データ: 特願2001-044101 2001年2月20日 (20.02.2001) JP (81) 指定国 (国内): CA, CN, KR, US.  
(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 三菱電機株式会社 (MITSUBISHI DENKI KABUSHIKI KAISHA) [JP/JP]; 〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 Tokyo (JP). (84) 指定国 (広域): ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR).  
添付公開書類:  
— 国際調査報告書

[続葉有]

(54) Title: MOBILE COMMUNICATION SYSTEM, MULTICARRIER CDMA TRANSMITTER, AND MULTICARRIER CDMA RECEIVER

(54) 発明の名称: 移動体通信システム、マルチキャリアCDMA送信装置およびマルチキャリアCDMA受信装置



(57) Abstract: A mobile communication system characterized in that the transmitting side adds a common pilot symbol and a known series to a data slot unit of a subcarrier group and that the receiving side carries out an averaging processing after combining the SIR values calculated for each group of subcarriers and thereby obtains a high accuracy SIR calculated value even if there exists level variation such as shadowing.

302...FREQUENCY CONVERTING SECTION  
303...GI REMOVING SECTION  
304...FOURIER TRANSFORM SECTION  
307...DELAY UNIT  
305-1...COMMON PILOT EXTRACTING SECTION  
305-2...COMMON PILOT EXTRACTING SECTION  
305-3...COMMON PILOT EXTRACTING SECTION  
305-m...COMMON PILOT EXTRACTING SECTION  
1-1...FADING COMPENSATION SECTION  
1-2...FADING COMPENSATION SECTION

1-3...FADING COMPENSATION SECTION  
1-m...FADING COMPENSATION SECTION  
309...FREQUENCY DESPREADING SECTION  
2-1...SIR CALCULATING SECTION  
2-2...SIR CALCULATING SECTION  
2-3...SIR CALCULATING SECTION  
2-n...SIR CALCULATING SECTION  
3...SUBCARRIER GROUP AVERAGING SECTION  
4...AVERAGING SECTION  
311...DATA JUDGING SECTION  
306...SUBCARRIER CHANNEL INFERRING SECTION

[続葉有]



2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

---

(57) 要約:

送信側が、サブキャリア群のデータスロット単位に共通パイロットシンボルと既知系列を付加することを特徴とし、受信側が、サブキャリア群単位に得られるSIR算出値を合成した後に平均化処理を行い、シャドウイング等のレベル変動がある場合においても、精度よくSIR算出値を得ることを特徴とする。

## 明 細 書

移動体通信システム、マルチキャリアCDMA送信装置およびマルチキャリアCDMA受信装置

5

## 技術分野

本発明は、マルチキャリアCDMA方式を採用する移動体通信システム、マルチキャリアCDMA送信装置（以降、単に送信装置と呼ぶ）、およびマルチキャリアCDMA受信装置（以降、受信装置と呼ぶ）に関するものであり、特に、周波数選択性フェージング伝送路で用いられる送信装置および受信装置に関するものである。

10

## 背景技術

以下、マルチキャリアCDMA方式を採用する従来の移動体通信システムについて説明する。従来のマルチキャリアCDMA方式を用いた多元接続方式の移動体通信システムの送受信装置としては、たとえば、文献「下りリンクブロードバンド無線パケット伝送における SC/DS-CDMA, MC/DS-CDMA, MC-CDMA 方式の特性比較、電子情報通信学会 信学技報 RCS99-130 p.63-70 1999 年 10 月」、「Overview of Multicarrier CDMA、IEEE Communications Magazine p.126-133 1997 年 12 月」に記載されている。

15

20

第 1 4 図は、上記文献記載の従来のマルチキャリアCDMA送信装置の構成を示す図である。第 1 4 図において、201 はシリアル／パラレル変換部（S/P）であり、202-1, 202-2, ..., 202-n はそれぞれ第 1, 2, ...,  $N_{scg}$  (=n) 番目のサブキャリア群変調処理部であり、203-1, 203-2, ..., 203-n は多重化部であり、204 は逆フーリエ変換部であり、205 はガードインターバル（GI）付加部であり、206 は周波数変換部であり、207 はアンテナである。また、各サブキャリア群変調処理部において、211-1,

25

211-2, ..., 211-nはスロット作成部であり、212-1, 212-2, ..., 212-nはコピー部であり、213-1, 213-2, ..., 213-kは情報変調部であり、214-1, 214-2, ..., 214-nは周波数拡散部である。

- 5      また、第15図は、上記文献記載の従来のマルチキャリアCDMA受信装置の構成を示す図である。第15図において、301はアンテナであり、302は周波数変換部であり、303はガードインターバル(GI)除去部であり、304はフーリエ変換部であり、305-1, 305-2, 305-3, ..., 305-mは共通パイロット抽出部であり、306はサブキャリア毎チャンネル推定部であり、307は遅延器であり、308-1, 308-2, 308-3, ..., 308-mはフェージング補償部であり、309は周波数逆拡散部であり、310はパラレル/シリアル変換部(P/S)、311はデータ判定部である。
- 10

ここで、上記のように構成される従来のマルチキャリアCDMA送受信装置の動作について説明する。なお、ここでは、基地局と複数端末間のデータ送受信を仮定する。

15

- まず、送信装置の動作について説明する。任意の端末に対して送信する送信データは、シリアル/パラレル変換部201に入力され、ここで、並列数が $N_{scg}$  (予め定められた整数)となるパラレルデータに変換され、それぞれ、サブキャリア群変調処理部202-1~nに到達する。なお、サブキャリア群単位に変調処理を行う第1番目~第 $N_{scg}$ 番目のサブキャリア群変調処理部202-1~nでは、すべて同一の信号処理を行うので、ここでは、第1番目のサブキャリア群変調処理部202-1での動作について説明を行い、他のサブキャリア群変調処理部については説明を省略する。
- 20

- サブキャリア群変調処理部202-1には、シリアル/パラレル変換部201の  
25      のパラレル出力のうち、第1番目のデータ系列が入力される。そして、スロット作成部211-1では、受け取ったデータ系列を $N_{data}$ 単位に分割し、分割された各データの先頭に共通パイロットシンボルを付加し、一つのデータスロットさ

らにはNスロット構成のフレームを作成する。第16図は、サブキャリア単位のフレームフォーマットを示す図である。図示のとおり、データスロットはパイロットシンボル部分（既知系列）とデータ部分で構成される。

第1番目のサブキャリア群のデータスロットを受け取ったコピー部212-1  
5 では、当該フレームを予め定められたサブキャリア数 $N_{\text{sub}}$ （=m）分だけコピーしてサブキャリア $N_{\text{sub}}$ 個分のデータスロットを作成する。第17図は、各コピー部の構成を示す図である。そして、コピー部212-1では、 $N_{\text{sub}}$ 個分のデータスロットを情報変調部213-1に対して出力する。

第18図は、各情報変調部の構成を示す図である。第18図において、221-1, 221-2, ..., 221-mはQPSK変調部である。 $N_{\text{sub}}$ 個分のデータスロットを受け取った情報変調部213-1では、当該データスロットをQPSK変調部221-1~221-mでQPSK変調し、 $N_{\text{sub}}$ 個の情報変調後サブキャリア信号を作成する。そして、当該 $N_{\text{sub}}$ 個の情報変調後サブキャリア信号を周波数拡散部214-1に対して出力する。

15 第19図は、各周波数拡散部の構成を示す図である。第19図において、222は周波数拡散コード生成部であり、223-1, 223-2, ..., 223-mは乗算器である。周波数拡散部214-1では、 $N_{\text{sub}}$ 個の情報変調後サブキャリア信号に対して、複数の端末単位あるいは送信する他のチャネル単位に予め与えられた互いに直交する周波数拡散コード（ただし、コードは±1で表現される）  
20 を用いて、周波数拡散を行う。具体的にいうと、 $N_{\text{sub}}$ 個の情報変調後サブキャリア信号に、周波数拡散コード生成部222が出力する各周波数拡散コードを乗算する。なお、周波数拡散コードは、一般的に、直交符号であるWalsh符号が用いられる。そして、周波数拡散部214-1では、 $N_{\text{sub}}$ 個の周波数拡散後サブキャリア信号を多重化部203-1に対して出力する。

25  $N_{\text{sub}}$ 個の周波数拡散後サブキャリア信号を受け取った多重化部203-1では、当該各サブキャリア信号（複数の端末へ送信するための送信信号）を多重化し、多重化後のサブキャリア信号を逆フーリエ変換部204に対して出力する。この

とき、逆フーリエ変換部 204 には、多重化部 203-1 の他、多重化部 203-2 ~ 203-n で得られた多重化後のサブキャリア信号も入力され、合計で  $N_{scg} \times N_{sub}$  ( $=N_c$ ) 個のサブキャリア信号が入力される。

逆フーリエ変換部 204 では、受け取った複数のサブキャリア信号を用いて逆  
5 フーリエ変換処理を行い、逆フーリエ変換後の信号をガードインターバル付加部 205 に対して出力する。

第 20 図は、ガードインターバルを付加する様子を説明するための図である。逆フーリエ変換後の信号は、第 20 図上部に示されるように、シンボルの連続信号である。ガードインターバル付加部 205 では、当該逆フーリエ変換後の信号  
10 におけるシンボルの後部を  $\tau_{GI}$  時間分だけコピーし、それをシンボルの先頭に貼り付ける。そして、ガードインターバル付加後の信号を周波数変換部 206 に対して出力する。なお、 $\tau_{GI}$  は、一般的に、伝送路上の遅延波広がり、すなわち、第 21 図に示す  $\tau_d$  よりも小さくなるように設定される。第 21 図は、周波数選択性フェージング伝送路のインパルス応答の一例を示す図である。移動体通信シ  
15 ステムにおいては、周囲の建物や地形によって電波が反射、回折、散乱するため、複数の伝送路を経た波（マルチパス波）が到来し、お互いに干渉する（周波数選択性フェージング）。

周波数変換部 206 では、受け取ったガードインターバル付加後の信号に対して所定の周波数変換処理を行い、その後、アンテナを介して、当該周波数変換後の信号を無線通信における伝送路上に出力する。第 22 図は、たとえば、 $N_{scg} =$   
20  $4$ 、 $N_{sub} = 8$  の場合の周波数軸上の変調信号を示す図である。

つぎに、受信装置の動作を、第 15 図を用いて説明する。アンテナ 301 を介して、無線通信路上で周波数選択性フェージング等の影響を受けた信号を受け取った周波数変換部 302 では、当該信号をベースバンド信号に変換する。そして、  
25 当該ベースバンド信号をガードインターバル除去部 303 に対して出力する。

ガードインターバル除去部 303 では、受け取ったベースバンド信号からガードインターバル (GI) を除去し、シンボルごとに連なった信号（第 20 図上部

参照)を生成する。そして、当該信号をフーリエ変換部304に対して出力する。

フーリエ変換部304では、受け取った信号に対してフーリエ変換処理を行い、 $N_{scg} \times N_{sub}$  ( $=N_c$ ) 個のサブキャリア信号を生成する。そして、当該複数のサブキャリア信号を、サブキャリア単位に、遅延器307および共通パイロット抽出部305-1~305-mに対してそれぞれ出力する。

共通パイロット抽出部305-1~305-mでは、それぞれ受け取ったサブキャリア信号から共通パイロット部分の抽出を行う。また、サブキャリア毎チャンネル推定部306では、隣り合う3個のサブキャリアのチャンネル推定値を同相加算することにより、雑音成分を抑圧したサブキャリア単位のチャンネル推定値を算出する。そして、当該サブキャリア単位のチャンネル推定値を、サブキャリア単位にフェージング補償部308-1~308-mに対して出力する。

一方、フーリエ変換後の各サブキャリア信号を受け取った遅延器307では、共通パイロット抽出部305-1~305-mの処理とサブキャリア毎チャンネル推定部306の処理による遅延を調整するため、遅延処理を行う。そして、遅延後のサブキャリア信号を、サブキャリア単位にフェージング補償部308-1~308-mに対して出力する。

第23図は、各フェージング補償部の構成を示す図である。第23図において、321は乗算器であり、322は複素共役算出部である。サブキャリア単位のチャンネル推定値を受け取った複素共役算出部322では、当該推定値の複素共役値を算出し、乗算器321では、受け取ったサブキャリア信号と算出された複素共役値とを乗算し、その乗算結果としてフェージング補償後のサブキャリア信号を出力する。そして、当該フェージング補償後のサブキャリア信号を、周波数逆拡散部309に対して出力する。

第24図は、周波数逆拡散部の構成を示す図である。第24図において、323は周波数逆拡散コード生成部であり、324-1, 324-2, ..., 324-mは乗算器であり、325は合成部である。たとえば、第22図のサブキャリア群に対応した $N_{sub}$  個のサブキャリア信号を一つの処理単位とし、乗算器324-

1 ~ 3 2 4 - mには、 $N_{\text{sub}}$ 個のサブキャリア信号が入力される。乗算器 3 2 4 -  
1 ~ 3 2 4 - mでは、当該 $N_{\text{sub}}$ 個のサブキャリア信号と周波数逆拡散コード生成  
部 3 2 3が出力する周波数逆拡散コード（周波数拡散コードと同一のコードであ  
り $\pm 1$ で表現可能）とをそれぞれ乗算する。合成部 3 2 5では、受け取った $N_{\text{sub}}$   
5 個分の逆拡散後のサブキャリア信号を合成し、その合成結果としてサブキャリア  
群信号に相当する周波数逆拡散信号を生成する。そして、当該周波数逆拡散後信  
号を、パラレル／シリアル変換部 3 1 0に対して出力する。

その後、パラレル／シリアル変換部 3 1 0では、受け取った周波数逆拡散後信  
号に対してパラレル／シリアル変換処理を行い、最後に、データ判定部 3 1 1で  
10 は、当該変換後の信号に対してデータ判定を行い、データを復調する。

しかしながら、上記、従来の移動体通信システムにおいては、以下に示すよう  
な問題があった。

たとえば、従来の移動体通信システムにおいては、周囲の建物や地形によって  
電波が反射、回折、散乱するため、移動局に対して複数の伝送路を経たマルチパ  
15 ス波が到来する。そして、そのマルチパス波がお互いに干渉し、受信波の振幅と  
位相がランダムに変動する周波数選択性フェージングが発生する。特に、移動局  
が高速に移動するような場合には、周波数選択性フェージングによる変動が高速  
となるため、フェージングによる振幅変動および位相変動を十分に推定できず、  
受信信号品質やデータ復調精度が劣化する、という問題があった。

20 また、従来の移動体通信システムにおいては、マルチキャリアCDMA受信装  
置側にて上記のように劣化した受信信号品質が算出され、さらに、マルチキャリ  
アCDMA送信装置側が当該劣化した受信信号品質を用いて送信電力制御を行っ  
ているため、通信の品質も劣化する、という問題があった。

また、従来の移動体通信システムにおいては、基地局からの送信信号が伝送路  
25 上で周波数選択性フェージングの影響を受けた場合に、伝送路状況によっては複  
数の遅延波が存在するため、移動局に到達している信号電力を受信信号品質の指  
標として算出することが難しい、という問題があった。また、多重するユーザの



信号によって干渉が発生するような場合には、このユーザ干渉を考慮した受信信号品質を精度良く推定することが難しい、という問題もあった。

また、マルチメディア移動体通信においては、送信装置側が、取り扱うアプリケーションや伝送路の状態に応じて、周波数拡散率あるいは変調信号の多値数を変更し、情報速度を適応的に変えることが必要となる。しかしながら、従来の移動体通信システムにおいては、フェージング、シャドウイング等のレベル変動があるため、受信信号品質を精度よく推定することができない、という問題があった。

従って、本発明は、精度のよい受信信号品質の推定処理と良好なデータ復調を実現可能な移動体通信システム、マルチキャリアCDMA送信装置およびマルチキャリアCDMA受信装置を提供することを目的としている。

#### 発明の開示

本発明にかかる移動体通信システムにあつては、送信側が、サブキャリア群単位に変換された送信データを用いて、サブキャリア群単位に、共通パイロット部分と受信側で信号対干渉電力比を推定するための既知系列部分とデータ部分で構成されたスロットを作成し、各スロットを所定のサブキャリア数分だけ複製して出力するスロット作成手段（後述する実施の形態のS/P201、スロット作成部12-1～12-n、コピー部212-1～212-nに相当）と、複製後の信号をサブキャリア群中のサブキャリア単位に変調する変調手段（情報変調部213-1～213-nに相当）と、変調後のサブキャリア群中のサブキャリア信号に対して個別に周波数拡散を行う周波数拡散手段（周波数拡散部214-1～214-nに相当）と、周波数拡散後のサブキャリア信号に対してサブキャリア群単位に送信電力制御を行う送信電力制御手段（送信電力可変部13-1～13-nに相当）と、送信電力制御後のサブキャリア信号をサブキャリア群単位に多重化する多重化手段（多重化部203-1～203-nに相当）と、多重化後のサブキャリア信号に対して逆フーリエ変換処理、ガードインターバル設定処理お

よび周波数変換処理を行うことで生成した所定の信号を伝送路上に送信する送信手段（逆フーリエ変換部 204、GI 付加部 205、周波数変換部 206、アンテナ 207 に相当）と、を備え、受信側が、受け取った伝送路上の信号をベースバンド信号に変換し、当該ベースバンド信号に対してフーリエ変換を行う受信手段（アンテナ 301、周波数変換部 302、GI 除去部 303、フーリエ変換部 304 に相当）と、フーリエ変換後の各サブキャリア信号に含まれる共通パイロット部分を抽出する共通パイロット抽出手段（共通パイロット抽出部 305-1 ~ 305-n に相当）と、前記共通パイロット部分を用いてサブキャリア単位のチャンネル推定値を算出するチャンネル推定手段（サブキャリア毎チャンネル推定部 306 に相当）と、フーリエ変換後の各サブキャリア信号を前記抽出処理およびチャンネル推定処理に要する時間だけ遅延させる遅延手段（値延器 307 に相当）と、前記各チャンネル推定値を用いて遅延後の各サブキャリア信号のフェージング補償を行うフェージング補償手段（フェージング補償部 1-1 ~ 1-m に相当）と、フェージング補償後の各サブキャリア信号に対して周波数逆拡散を行う周波数逆拡散手段（周波数逆拡散部 309 に相当）と、周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号に含まれる既知系列部分を用いて信号対干渉電力比を推定する SIR 推定手段（SIR 算出部 2-1 ~ 2-n、サブキャリア群平均化部 3、平均化部 4 に相当）と、周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号を復調する復調手段（P/S 310、データ判定部 311 に相当）と、を備えることを特徴とする。

つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記チャンネル推定手段は、サブキャリア単位のチャンネル推定値を算出後、さらに、当該サブキャリア単位のチャンネル推定値と、次スロット入力時に算出されるサブキャリア単位のチャンネル推定値と、の 2 つのスロット間における一次補間値を算出し、その算出結果をチャンネル推定値として出力することを特徴とする。

つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記 SIR 推定手段は、前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、予め判っている既知系列を発生する既知系列発生手段と、前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分

を除去する逆変調手段と、変調成分除去後の既知系列部分を用いて同相平均化処理を行うことで雑音成分を抑圧する第1の平均化手段と、平均化処理後の既知系列部分を2乗することで信号電力を算出する第1の2乗手段と、前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変調手段と、前記既  
5 知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算する減算手段と、減算後の信号を2乗する第2の2乗手段と、前記第2の2乗手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第2の平均化手段と、前記信号電力を前記平均干渉電力で除算する除算手段と、サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブキャリア群数を用いて当該合成結果を平均  
10 化するサブキャリア群平均化手段と、サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化するスロット平均化手段と、を備えることを特徴とする。

つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記SIR推定手段は、前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、予め判っている既知系列を発生  
15 する既知系列発生手段と、前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分を除去する逆変調手段と、変調成分除去後の既知系列部分を用いて同相平均化処理を行うことで雑音成分を抑圧する第1の平均化手段と、平均化処理後の既知系列部分を2乗することで信号電力を算出する第1の2乗手段と、前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変調手段と、前記既  
20 知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算する減算手段と、減算後の信号を2乗する第2の2乗手段と、前記第2の2乗手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第2の平均化手段と、前記平均干渉電力を複数スロットにわたって平均化する第1のスロット平均化手段と、前記信号電力を複数スロットにわたって平均化された平均干渉電力で除算する除算手段と、  
25 サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブキャリア群数を用いて当該合成結果を平均化するサブキャリア群平均化手段と、サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化するスロ

ット平均化手段と、を備えることを特徴とする。

つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記S I R推定手段は、前記サブキャリア群平均化手段の出力を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする。

- 5 つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記S I R推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする。

- 10 つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記S I R推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、サブキャリア群単位に複数スロットにわたって平均化し、その平均化結果を推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする。

- 15 つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記変調手段は、受け取った信号対干渉電力比に応じて、BPSK, QPSK, 8PSK, 16PSK, 16QAM, 64QAM, 128QAM, 256QAMのなかから、いずれか1つの変調方式を選択することを特徴とする。

つぎの発明にかかる移動体通信システムにおいて、前記周波数拡散手段は、受け取った信号対干渉電力比に応じて、適切な周波数拡散率を選択することを特徴とする。

- 20 つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA送信装置にあつては、サブキャリア群単位に変換された送信データを用いて、サブキャリア群単位に、共通パイロット部分と受信側で信号対干渉電力比を推定するための既知系列部分とデータ部分で構成されたスロットを作成し、各スロットを所定のサブキャリア数分だけ複製して出力するスロット作成手段と、複製後の信号をサブキャリア群中のサブキャリア単位に変調する変調手段と、変調後のサブキャリア群中のサブキャリア信号に対して個別に周波数拡散を行う周波数拡散手段と、周波数拡散後のサブキャリア信号に対してサブキャリア群単位に送信電力制御を行う送信電力制御手段と、送信電力制御後のサブキャリア信号をサブキャリア群単位に多重化する多重化手
- 25

段と、多重化後のサブキャリア信号に対して逆フーリエ変換処理、ガードインターバル設定処理および周波数変換処理を行うことで生成した所定の信号を伝送路上に送信する送信手段と、を備えることを特徴とする。

つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA送信装置において、前記変調手段  
5 は、受け取った信号対干渉電力比に応じて、BPSK, QPSK, 8PSK, 16PSK, 16QAM, 64QAM, 128QAM, 256QAMのなかから、いずれか1つの変調方式を選択することを特徴とする。

つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA送信装置において、前記周波数拡散手段は、受け取った信号対干渉電力比に応じて、適切な周波数拡散率を選択する  
10 ことを特徴とする。

つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA受信装置にあつては、受け取った伝送路上の信号をベースバンド信号に変換し、当該ベースバンド信号に対してフーリエ変換を行う受信手段と、フーリエ変換後の各サブキャリア信号に含まれる共通パイロット部分を抽出する共通パイロット抽出手段と、前記共通パイロット  
15 部分を用いてサブキャリア単位のチャネル推定値を算出するチャネル推定手段と、フーリエ変換後の各サブキャリア信号を前記抽出処理およびチャネル推定処理に要する時間だけ遅延させる遅延手段と、前記各チャネル推定値を用いて遅延後の各サブキャリア信号のフェージング補償を行うフェージング補償手段と、フェージング補償後の各サブキャリア信号に対して周波数逆拡散を行う周波数逆拡散手段と、周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号に含まれる既知系列部分を用いて  
20 信号対干渉電力比を推定するSIR推定手段と、周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号を復調する復調手段と、を備えることを特徴とする。

つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA受信装置において、前記チャネル推定手段は、サブキャリア単位のチャネル推定値を算出後、さらに、当該サブキャリア  
25 単位のチャネル推定値と、次スロット入力時に算出されるサブキャリア単位のチャネル推定値と、の2つのスロット間における一次補間値を算出し、その算出結果をチャネル推定値として出力することを特徴とする。

つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA受信装置において、前記SIR推定手段は、前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、予め判っている既知系列を発生する既知系列発生手段と、前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分を除去する逆変調手段と、変調成分除去後の既知系列部分を用いて

5 同相平均化処理を行うことで雑音成分を抑圧する第1の平均化手段と、平均化処理後の既知系列部分を2乗することで信号電力を算出する第1の2乗手段と、前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変調手段と、前記既知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算する減算手段と、減算後の信号を2乗する第2の2乗手段と、前記第2の2乗

10 手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第2の平均化手段と、前記信号電力を前記平均干渉電力で除算する除算手段と、サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブキャリア群数を用いて当該合成結果を平均化するサブキャリア群平均化手段と、サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化するスロット平均化手段と、を備えることを特徴とする。

15

つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA受信装置において、前記SIR推定手段は、前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、予め判っている既知系列を発生する既知系列発生手段と、前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分を除去する逆変調手段と、変調成分除去後の既知系列部分を用いて

20 同相平均化処理を行うことで雑音成分を抑圧する第1の平均化手段と、平均化処理後の既知系列部分を2乗することで信号電力を算出する第1の2乗手段と、前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変調手段と、前記既知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算する減算手段と、減算後の信号を2乗する第2の2乗手段と、前記第2の2乗

25 手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第2の平均化手段と、前記平均干渉電力を複数スロットにわたって平均化する第1のスロット平均化手段と、前記信号電力を複数スロットにわたって平均化された平均干渉電力で除算する除

算手段と、サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブキャリア群数を用いて当該合成結果を平均化するサブキャリア群平均化手段と、サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化するスロット平均化手段と、を備えることを特徴とする。

- 5 つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA受信装置において、前記SIR推定手段は、前記サブキャリア群平均化手段の出力を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする。

- つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA受信装置において、前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、推定信号対干渉電力比と  
10 することを特徴とする。

つぎの発明にかかるマルチキャリアCDMA受信装置において、前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、サブキャリア群単位に複数スロットにわたって平均化し、その平均化結果を推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする。

15

#### 図面の簡単な説明

- 第1図は、本発明にかかる受信装置の実施の形態1の構成を示す図であり、第2図は、本発明にかかる送信装置の実施の形態1の構成を示す図であり、第3図は、スロット作成部の構成を示す図であり、第4図は、サブキャリア単位のス  
20 ョットフォーマットを示す図であり、第5図は、送信電力可変部の構成を示す図であり、第6図は、フェージング補償部の構成を示す図であり、第7図は、SIR算出部の構成を示す図であり、第8図は、平均化部4の構成を示す図であり、第9図は、平均化部4の構成を示す図であり、第10図は、実施の形態2のSIR算出部の構成を示す図であり、第11図は、実施の形態3の情報変調部の構成を示す図であり、第12図は、変調方式変更の一例を示す図であり、第13図は、  
25 周波数拡散率変更の一例を示す図であり、第14図は、従来のマルチキャリアCDMA送信装置の構成を示す図であり、第15図は、従来のマルチキャリアCD

MA受信装置の構成を示す図であり、第16図は、サブキャリア単位のフレームフォーマットを示す図であり、第17図は、コピー部の構成を示す図であり、第18図は、情報変調部の構成を示す図であり、第19図は、周波数拡散部の構成を示す図であり、第20図は、ガードインターバルを付加する様子を説明するための図であり、第21図は、周波数選択性フェージング伝送路のインパルス応答の一例を示す図であり、第22図は、 $N_{scg}=4$ 、 $N_{sub}=8$ の場合の周波数軸上の変調信号を示す図であり、第23図は、フェージング補償部の構成を示す図であり、第24図は、周波数逆拡散部の構成を示す図である。

10 発明を実施するための最良の形態

以下に、本発明にかかる移動体通信システム、マルチキャリアCDMA送信装置（以降、送信装置と呼ぶ）、マルチキャリアCDMA受信装置（以降、受信装置と呼ぶ）の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明する。なお、この実施の形態によりこの発明が限定されるものではない。

15 実施の形態1.

第1図は、本発明にかかる受信装置の実施の形態1の構成を示す図である。第1図において、301はアンテナであり、302は周波数変換部であり、303はガードインターバル除去部であり、304はフーリエ変換部であり、305-1～305-mは共通パイロット抽出部であり、306はサブキャリア毎チャネル推定部であり、307は遅延器であり、1-1, 1-2, 1-3, ..., 1-mはフェージング補償部であり、309は周波数逆拡散部であり、2-1, 2-2, 2-3, ..., 2-nはSIR算出部であり、310はパラレル/シリアル変換部であり、311はデータ判定部であり、3はサブキャリア群平均化部であり、4は平均化部である。

25 また、第2図は、本発明にかかる送信装置の実施の形態1の構成を示す図である。第2図において、201はシリアル/パラレル変換部（S/P）であり、11-1, 11-2, ..., 11-nはそれぞれ第1, 2～,  $N_{scg}(=n)$  番目の



サブキャリア群変調処理部であり、 $203-1$ ,  $203-2$ , ...,  $203-n$  は多重化部であり、 $204$ は逆フーリエ変換部であり、 $205$ はガードインターバル (GI) 付加部であり、 $206$ は周波数変換部であり、 $207$ はアンテナである。また、各サブキャリア群変調処理部において、 $12-1$ ,  $12-2$ , ...,  $12-n$ はスロット作成部であり、 $212-1$ ,  $212-2$ , ...,  $212-n$ はコピー部であり、 $213-1$ ,  $213-2$ , ...,  $213-n$ は情報変調部であり、 $214-1$ ,  $214-2$ , ...,  $214-n$ は周波数拡散部であり、 $13-1$ ,  $13-2$ , ...,  $13-n$ は送信電力可変部である。

ここで、上記本実施の形態の移動体通信システムにおけるマルチキャリアCDMA送受信装置の動作について説明する。なお、ここでは、基地局と複数端末間のデータ送受信を仮定する。

まず、送信装置の動作について説明する。任意の端末に対して送信する送信データは、シリアル/パラレル変換部 $201$ に入力され、ここで、並列数が $N_{scg}$  (予め定められた整数) となるパラレルデータに変換され、それぞれ、サブキャリア群変調処理部 $11-1 \sim n$ に到達する。なお、サブキャリア群単位に変調処理を行う第1番目～第 $N_{scg}$ 番目のサブキャリア群変調処理部 $11-1 \sim n$ では、すべて同一の信号処理を行うので、ここでは、第1番目のサブキャリア群変調処理部 $11-1$ での動作について説明を行い、他のサブキャリア群変調処理部については説明を省略する。

サブキャリア群変調処理部 $11-1$ には、シリアル/パラレル変換部 $201$ のパラレル出力のうち、第1番目のデータ系列が入力され、まず、スロット作成部 $12-1$ が、所定のスロットを作成する。第3図は、各スロット作成部の構成を示す図であり、 $21$ はスロット毎データ分割部であり、 $22$ は既知系列付加部であり、 $23$ は共通パイロット付加部である。また、第4図は、サブキャリア単位のスロットフォーマットを示す図である。具体的にいうと、スロット作成部 $12-1$ では、第4図に示すスロットを作成するために、スロット毎データ分割部 $21$ が、スロットのデータサイズである $N_{data}$ シンボル単位にデータ分割処理を行

う。データ分割処理後のデータを受け取った既知系列付加部 2 2 では、当該データに  $N_{kw}$  シンボル分の予め定められた既知の系列を付加する。さらに、既知系列付加後のデータを受け取った共通パイロット付加部 2 3 では、当該データに  $N_{pil}$  シンボル分の予め定められた既知の系列を付加し、最終的に第 4 図に示すスロット構成のサブキャリア群データを作成する。そして、当該サブキャリア群データを、コピー部 2 1 2 - 1 に対して出力する。

第 1 番目のサブキャリア群データを受け取ったコピー部 2 1 2 - 1 では、当該フレームを予め定められたサブキャリア数  $N_{sub}$  ( $=m$ ) 分だけコピーして  $N_{sub}$  個分のサブキャリア信号を作成する。なお、各コピー部の構成は先に説明した第 1 7 図と同様である。そして、コピー部 2 1 2 - 1 では、 $N_{sub}$  個分のサブキャリア信号を情報変調部 2 1 3 - 1 に対して出力する。

$N_{sub}$  個分のサブキャリア信号を受け取った情報変調部 2 1 3 - 1 では、当該信号を QPSK 変調部 2 2 1 - 1 ~ 2 2 1 -  $m$  で QPSK 変調し、 $N_{sub}$  個の情報変調後サブキャリア信号を作成する。なお、各情報変調部の構成は先に説明した第 1 8 図と同様である。そして、当該  $N_{sub}$  個の情報変調後サブキャリア信号を周波数拡散部 2 1 4 - 1 に対して出力する。

周波数拡散部 2 1 4 - 1 では、 $N_{sub}$  個の情報変調後サブキャリア信号に対して、複数の端末単位あるいは送信する他のチャネル単位に予め与えられた互いに直交する周波数拡散コード（コードは  $\pm 1$  で表現される）を用いて、周波数拡散を行う。なお、各周波数拡散部の構成は先に説明した第 1 9 図と同様である。具体的にいうと、 $N_{sub}$  個の情報変調後サブキャリア信号に、周波数拡散コード生成部 2 2 2 が出力する各周波数拡散コードを乗算する。なお、周波数拡散コードは、一般的に、直交符号である Walsh 符号が用いられる。そして、周波数拡散部 2 1 4 - 1 では、 $N_{sub}$  個の周波数拡散後サブキャリア信号を送信電力可変部 1 3 - 1 に対して出力する。

第 5 図は、各送信電力可変部の構成を示す図であり、3 1 - 1, 3 1 - 2, ..., 3 1 -  $m$  は乗算器である。送信電力可変部 1 3 - 1 では、乗算器 3 1 - 1 ~

3 1-mが、受け取った $N_{\text{sub}}$ 個の周波数拡散後サブキャリア信号と当該信号に個別に対応する送信電力制御ゲインとを乗算し、それらの乗算結果として送信電力制御後サブキャリア信号を生成する。そして、当該送信電力制御後サブキャリア信号を、多重化部203-1に対して出力する。なお、送信電力制御ゲインは、  
5 受信側である端末の受信信号品質に基づいて、受信端末側で信号品質が一定のレベルに保てるように適切な値が設定される。

$N_{\text{sub}}$ 個の送信電力制御後サブキャリア信号を受け取った多重化部203-1では、当該各サブキャリア信号（複数の端末へ送信するための送信信号）を多重化し、多重化後のサブキャリア信号を逆フーリエ変換部204に対して出力する。  
10 このとき、逆フーリエ変換部204には、多重化部203-1の他、多重化部203-2～203-nで得られた多重化後のサブキャリア信号も入力され、合計で $N_{\text{scg}} \times N_{\text{sub}}$  ( $=N_c$ ) 個のサブキャリア信号が入力される。

逆フーリエ変換部204では、受け取った複数のサブキャリア信号を用いて逆フーリエ変換処理を行い、逆フーリエ変換後の信号をガードインターバル付加部  
15 205に対して出力する。

ガードインターバル付加部205では、当該逆フーリエ変換後の信号におけるシンボルの後部を $\tau_{\text{GI}}$ 時間分だけコピーし、それをシンボルの先頭に貼り付ける（第20図参照）。そして、ガードインターバル付加後の信号を周波数変換部206に対して出力する。なお、 $\tau_{\text{GI}}$ は、一般的に、伝送路上の遅延波広がりより  
20 りも小さくなるように設定される（第21図参照）。

最後に、周波数変換部206では、受け取ったガードインターバル付加後の信号に対して所定の周波数変換処理を行い、その後、アンテナを介して、当該周波数変換後の信号を無線通信における伝送路上に出力する。

つぎに、受信装置の動作を、第1図を用いて説明する。アンテナ301を介して、無線通信路上で周波数選択性フェージング等の影響を受けた信号を受け取った周波数変換部302では、当該信号をベースバンド信号に変換する。そして、当該ベースバンド信号をガードインターバル除去部303に対して出力する。  
25

ガードインターバル除去部 303 では、受け取ったベースバンド信号からガードインターバル (GI) を除去し、シンボルごとに連なった信号 (第 20 図上部参照) を生成する。そして、当該信号をフーリエ変換部 304 に対して出力する。

フーリエ変換部 304 では、受け取った信号に対してフーリエ変換処理を行い、  
5  $N_{scg} \times N_{sub}$  ( $=N_c$ ) 個のサブキャリア信号を生成する。そして、当該各サブキャリア信号を、サブキャリア単位に、遅延器 307 および共通パイロット抽出部 305-1 ~ 305-m に対してそれぞれ出力する。

共通パイロット抽出部 305-1 ~ 305-m では、それぞれ受け取ったサブキャリア信号から共通パイロット部分の抽出を行う。また、サブキャリア毎チャ  
10 ネル推定部 306 では、隣り合う 3 個のサブキャリアのチャネル推定値を同相加算することにより、雑音成分を抑圧したサブキャリア単位のチャネル推定値を算出する。そして、当該サブキャリア単位のチャネル推定値 (サブキャリアチャネル推定信号) を、サブキャリア単位にフェージング補償部 1-1 ~ 1-m に対して出力する。

15 一方、フーリエ変換後の各サブキャリア信号を受け取った遅延器 307 では、共通パイロット抽出部 305-1 ~ 305-m の処理とサブキャリア毎チャネル推定部 306 の処理による遅延を調整するため、遅延処理を行う。そして、遅延後のサブキャリア信号を、サブキャリア単位にフェージング補償部 1-1 ~ 1-m に対して出力する。

20 第 6 図は、各フェージング補償部の構成を示す図であり、41 は絶対値算出部であり、42 は除算部であり、43 は複素共役算出部であり、44 は乗算部である。フェージング補償部 1-1 では、フェージング変動による位相成分の補償を行うため、サブキャリアチャネル推定信号を信号振幅で正規化する。具体的にいうと、まず、絶対値算出部 41 が、受け取ったサブキャリアチャネル推定信号の  
25 振幅値を算出するために、サブキャリアチャネル推定信号の絶対値を算出する。つぎに、除算部 42 では、正規化処理を行うため、受け取ったサブキャリアチャネル推定信号を当該絶対値で除算する。つぎに、複素共役算出部 43 では、除算

部 4 2 の出力の共役複素値を算出する。つぎに、乗算部 4 4 では、受け取ったサブキャリア信号に当該複素共役値を乗算する。最後に、フェージング補償部 1 - 1 では、フェージング補償後のサブキャリア信号を、サブキャリア単位に周波数逆拡散部 3 0 9 に対して出力する。

- 5      周波数逆拡散部 3 0 9 では、サブキャリア群に対応した  $N_{\text{sub}}$  個のサブキャリア信号を一つの処理単位とし、まず、 $N_{\text{sub}}$  個のサブキャリア信号を受け取った乗算器 3 2 4 - 1 ~ 3 2 4 - m が、当該  $N_{\text{sub}}$  個のサブキャリア信号と周波数逆拡散コード生成部 3 2 3 が出力する周波数逆拡散コード（周波数拡散コードと同一のコードであり  $\pm 1$  で表現可能）とをそれぞれ乗算する。つぎに、合成部 3 2 5 では、  
10      受け取った  $N_{\text{sub}}$  個分の逆拡散後のサブキャリア信号を合成し、その合成結果としてサブキャリア群信号に相当する周波数逆拡散信号を生成する。そして、当該周波数逆拡散後信号を、サブキャリア群単位に S I R 算出部 2 - 1 ~ 2 - n および  
パラレル／シリアル変換部 3 1 0 に対して出力する。

- 第 7 図は、各 S I R 算出部の構成を示す図であり、5 1 は既知系列抽出部であり、5 2 は逆変調部であり、5 3 は平均化部であり、5 4 は 2 乗部であり、5 5  
15      は既知系列発生部であり、5 6 は再変調部であり、5 7 は減算部であり、5 8 は 2 乗部であり、5 9 は平均化部であり、6 0 は除算部である。なお、各 S I R 算出部では同一の動作が行われるので、ここでは、特に S I R 算出部 2 - 1 の動作  
についてのみ説明する。S I R 算出部 2 - 1 では、まず、既知系列抽出部 5 1 が、  
20      受け取った周波数逆拡散後のサブキャリア群信号のなかから、第 4 図に示す既知系列を抽出する。

- つぎに、抽出された既知系列部分を受け取った逆変調部 5 2 では、既知系列発生部 5 5 が生成する受信端末側で予め判っている既知系列を利用して、変調成分を除去する。つぎに、変調成分除去後の既知系列部分を受け取った平均化部 5 3  
25      では、 $N_{\text{kw}}$  個の既知系列部分のシンボルを用いて同相平均化処理を行い、雑音成分を抑圧する。つぎに、平均化処理後の既知系列部分を受け取った 2 乗部 5 4 では、当該既知系列部分を 2 乗する。

一方、既知系列発生部 5 5 が生成する受信端末側で予め判っている既知系列と、平均化部 5 3 出力の平均化処理後の既知系列部分と、を受け取った再変調部 5 6 では、これらの信号を用いて再び変調処理を行う。本実施の形態では、第 2 図の送信装置で情報変調として Q P S K 変調が行われているため、再度、Q P S K 変調が行われることになる。

つぎに、減算部 5 7 では、受け取った既知系列抽出部 5 1 にて抽出された既知系列部分から再変調後の信号を減算する。この減算は、シンボル単位に既知シンボル数に相当する  $N_{kw}$  個分だけ行われる。つぎに、減算結果を受け取った 2 乗部 5 8 では、 $N_{kw}$  個のシンボル分の 2 乗値を算出する。つぎに、平均化部 5 9 では、受け取った 2 乗算出結果を用いて平均化処理を行い、 $N_{kw}$  個のシンボル分の平均干渉電力を算出する。

最後に、S I R 算出部 2-1 の除算部 6 0 では、2 乗部 5 4 の演算結果を平均化部 5 9 の演算結果で除算し、その除算結果として、スロット単位にサブキャリア群の S I R 算出値を生成する。そして、当該 S I R 算出値をサブキャリア群平均化部 3 に対して出力する。

つぎに、すべての S I R 算出部 2-1 ~ 2-n から S I R 算出値を受け取ったサブキャリア群平均化部 3 では、当該  $N_{scg}$  個の S I R 算出値を平均化し、その平均化結果を平均化部 4 に対して出力する。

第 8 図は、平均化部 4 の構成を示す図であり、7 1 は増幅部であり、7 2 は加算部であり、7 3 は増幅部であり、7 4 は遅延器である。平均化部 4 では、まず、増幅部 7 1 が、受け取った合成結果に対して任意定数  $\alpha$  ( $0 < \alpha < 1$ ) をゲインとして乗算する。つぎに、加算部 7 2 では、増幅部 7 3 の演算結果と増幅部 7 1 の演算結果とを加算し、その加算結果を平均化された S I R 推定値として出力する。なお、平均化された S I R 推定値を受け取った遅延器 7 4 では、一定時間、たとえば、1 スロット分の遅延処理を行い、さらに、増幅部 7 3 では、遅延処理後の S I R 推定値にゲイン ( $1 - \alpha$ ) を乗算し、その結果を加算部 7 2 に対して出力する。

ただし、本実施の形態では、平均化部4の構成例として、第8図に示す構成を用いたが、これ限らず、たとえば、第9図に示すような平均化部を用いることとしてもよい。第9図において、75はシフトレジスタ部であり、76は加算部であり、77は任意定数Mで除算を行う除算部である。このような構成を用いた場合、平均化部4では、まず、シフトレジスタ75が、受け取った合成後のSIR算出値をスロット単位にシフトし、つぎに、加算部76が、Mスロット分のSIR値を加算し、最後に、除算部77が、当該加算結果をMで除算することで、Mスロット分のSIR算出値を平均化する。

このように、本実施の形態においては、サブキャリア群のスロット単位に共通パイロットシンボルと既知系列を付加する構成としたため、サブキャリア群単位にSIR算出値を精度よく得ることができる。

また、本実施の形態においては、サブキャリア群単位に得られるSIR算出値を合成した後に、平均化処理を行っているので、シャドウイング等のレベル変動がある場合においても、精度よくSIR算出値を得ることができる。

また、本実施の形態においては、サブキャリア群単位に得られるSIR算出値の合成結果に基づいて、送信装置側が送信電力の制御を行うので、受信装置側にて精度のよい受信信号品質を得ることができる。

なお、本実施の形態では、スロット中において、共通パイロットシンボルの後に既知系列を配置することとしているが、必ずしも共通パイロットシンボルの後に既知系列を配置する必要はなく、たとえば、スロットの中央部やスロットの最後部に配置することとしてもよい。

また、上記サブキャリア毎チャンネル推定部306では、雑音成分を抑圧したサブキャリア単位のチャンネル推定値を算出後、さらに、当該サブキャリア単位のチャンネル推定値と、次スロット入力時に同様に算出されるサブキャリア単位のチャンネル推定値と、を用いて、2つのスロット間における一次補間値を算出することとしてもよい。

この場合、現スロットのサブキャリア毎チャンネル推定値をC(0)とし、次ス

ロットのサブキャリア毎チャンネル推定値を $C(1)$ とし、さらに、共通パイロットシンボル間のシンボル数を $(N_{kw} + N_{data})$ とすると(第4図参照)、スロット内の既知系列部分とデータ部分の $(N_{kw} + N_{data})$ 個のシンボルのチャンネル推定値 $cir(k)$ は、次式(1)のとおり表現することができる。

$$\begin{aligned} cir(k) = & C(0) Q_0(k / (N_{kw} + N_{data})) \\ & + C(1) Q_1(k / (N_{kw} + N_{data})) \end{aligned} \quad (1)$$

ただし、 $k = 0, 1, 2, \dots, (N_{kw} + N_{data} - 1)$ であり、 $Q_0, Q_1$ はそれぞれ、次式(2)(3)で表現される。

$$Q_0(k / (N_{kw} + N_{data})) = 1 - k / (N_{kw} + N_{data}) \quad (2)$$

$$Q_1(k / (N_{kw} + N_{data})) = k / (N_{kw} + N_{data}) \quad (3)$$

そして、上記のように算出されたサブキャリア毎チャンネル推定値を、フェージング補償部1-1~1-mに対して出力し、ここで、上記のようにフェージング補償を行う。なお、遅延器307では、上記一次補間処理を考慮して遅延量を設定する。

したがって、このようなサブキャリア毎チャンネル推定部306を用いた場合には、サブキャリア単位に2スロット分の共通パイロットを用いて一次補間を行っているので、スロット内でフェージング変動の影響が無視できなくなるような高速フェージング変動の場合においても、精度よくチャンネル推定が行える。そのため、既知系列部分およびデータ部分のシンボルのフェージング補償が精度良く行えることとなり、結果として、SIR推定値の精度が向上する。

実施の形態2.

実施の形態2の移動体通信システムにおいては、受信装置内のSIR算出部のSIR算出方法が前述の実施の形態1と異なる。ここでは、前述の実施の形態1と動作の異なる部分についてのみ説明する。なお、本実施の形態の送信装置および受信装置の構成は、前述の第1図および第2図の構成と同様である。

第10図は、実施の形態2のSIR算出部の構成を示す図であり、61は平均化部である。平均化部61には、平均化部59から出力されるスロット単位の平



均干渉電力が入力され、ここでは、複数のスロットを用いて平均干渉電力がさらに平均化される。なお、平均化部 6 1 の構成は、たとえば、前述の第 8 図または第 9 図の構成と同一である。

5      このように、本実施の形態においては、実施の形態 1 と同様の効果が得られるとともに、さらに、スロット単位の平均干渉電力を推定した後に、複数スロットを用いてさらに平均化処理を行って干渉電力を算出する構成としたため、受信信号品質の指標である S I R 推定値をさらに精度良く算出することができる。

10      なお、本実施の形態では、第 1 図に示すように、平均化部 4 の出力を S I R 推定値として出力していたが、これに限らず、たとえば、サブキャリア群平均化部 3 の出力を S I R 推定値してもよい。これにより、フェージング変動で信号電力が変動する場合においても、フェージング変動を考慮した S I R 推定値を、精度良く算出することができる。

15      また、サブキャリア群単位の S I R 算出部 2 - 1 ~ 2 - n の出力値を S I R 推定値としてもよい。この場合、基地局では、受け取ったサブキャリア群単位の S I R 情報に基づいて、サブキャリア群単位に送信電力制御を行うことができる。

20      また、サブキャリア群単位の S I R 算出部 2 - 1 ~ 2 - n の後段に個別に第 8 図または第 9 図に示す平均化部 4 を設け、各平均化部の出力値を S I R 推定値としてもよい。この場合、フェージング変動を考慮したサブキャリア群単位の S I R 情報に基づいて、サブキャリア群単位に送信電力制御を行うことができる。

25      実施の形態 3.

25      実施の形態 3 の移動体通信システムにおいては、送信装置内の情報変調部の動作が前述の実施の形態 1 または 2 と異なる。ここでは、先に説明した実施の形態 1 または 2 と動作の異なる部分についてのみ説明する。なお、本実施の形態の送信装置および受信装置の構成は、先に説明した第 1 図および第 2 図の構成と同様である。

第 1 1 図は、実施の形態 3 の情報変調部の構成を示す図であり、8 1 - 1, 8 1 - 2, ..., 8 1 - m は多値変調部である。たとえば、 $N_{\text{sub}}$  個分のサブキャリ

ア信号を受け取った各情報変調部では、当該信号を多値変調部  $81-1 \sim 81-m$  で多値変調し、 $N_{\text{sub}}$  個の情報変調後サブキャリア信号を作成する。なお、ここでいう多値変調とは、BPSK, QPSK, 8PSK, 16PSK, 16QAM, 64QAM, 128QAM, 256QAM等の1シンボルで送信できるビット数が1以上の変調方式を包含する。

上記動作を移動体通信システムとして具体的に説明すると、まず、移動局受信装置側では、受信信号品質であるSIRを推定する。そして、移動局送信装置側では、その推定結果を送信スロットに挿入した状態で、当該送信スロットを基地局に対して送信する。一方、基地局送信装置側では、受け取ったSIR情報に基づいて、適切な変調方式を選択し、以降、選択された変調方式を用いてデータ送信を行う。

なお、基地局が送信する送信スロットの共通パイロット部分と既知系列部分については、予め定められた変調方式である、たとえば、QPSK変調方式を用いるものとする。また、データ部分の変調方式については、多値変調方式である、BPSK, QPSK, 8PSK, 16PSK, 16QAM, 64QAM, 128QAM, 256QAMのいずれか1つを用いるものとする。ただし、これらの変調方式の場合は、PSKの前の数字が大きくなるほど、1シンボルあたりに送信できるビット数が多くなるが、受信信号品質であるSIRは、所要品質を満たそうとすると大きな値が必要となる。そこで、基地局では、移動局のSIR推定値に基づいて、変調方式を変更できるようにする。第12図は、変調方式変更の一例を示す図である。ここでは、伝送路状況に応じてSIR推定値に若干の誤差が生じる可能性があるため、SIR推定値にはオーバーラップする領域を設定する。

このように、本実施の形態においては、実施の形態1または2と同様の効果が得られるとともに、さらに、移動局側からの受信SIRに応じて、基地局側で情報速度を変更することが可能な構成としたため、周波数利用効率を大幅に向上させることができる。

実施の形態4.

実施の形態4の移動体通信システムにおいては、送信装置内の周波数拡散部の動作が前述の実施の形態1、2または3と異なる。ここでは、先に説明した実施の形態1、2または3と動作の異なる部分についてのみ説明する。なお、本実施の形態の送信装置および受信装置の構成は、先に説明した第1図および第2図の構成と同様である。

本実施の形態の各周波数拡散部では、先に説明した実施の形態1と同様の互いに直交する周波数拡散コードを用いて、 $N_{\text{sub}}$ 個の情報変調後サブキャリア信号に対して周波数拡散を行う。具体的にいうと、 $N_{\text{sub}}$ 個の情報変調後サブキャリア信号に、周波数拡散コード生成部222が出力する各周波数拡散コードを乗算する（第19図参照）。

ただし、本実施の形態においては、基地局送信装置側の周波数拡散部214-1～214-nで用いられる周波数拡散率が、移動局受信装置側で推定されるSIR推定値に基づいて設定される。

すなわち、本実施の形態では、移動局受信装置側が、受信信号品質であるSIRを推定し、移動局送信装置側が、その推定結果を送信スロットに挿入し、当該送信スロットを基地局に対して送信する。基地局送信装置側では、受け取ったSIR情報に基づいて、適切な周波数拡散率を選択し、以降、選択された周波数拡散率を用いて周波数拡散を行い、データ送信を行う。

なお、基地局が送信する送信スロットの既知系列部分については、予め定められた周波数拡散率で周波数拡散が行われ、受信装置側におけるSIR推定の基準となる。データ部分の周波数拡散率については、1、2、4、8、16、32、…を用いることが可能である。ただし、これらの周波数拡散率は、周波数拡散率が大きくなるほど周波数ダイバーシチ効果が大きくなるが、情報伝送速度が低下するために周波数拡散率を小さくし、情報速度を高速にした場合には、受信信号品質であるSIRは、所要品質を満たそうとすると大きな値が必要なる。そこで、基地局では、移動局のSIR推定値に基づいて、周波数拡散率を変更できるようにする。第13図は、周波数拡散率変更の一例を示す図である。ここでは、

伝送路状況に応じてS I R推定値に若干の誤差が生じる可能性があるため、S I R推定値にはオーバーラップする領域を設定する。

5      このように、本実施の形態においては、実施の形態1～3と同様の効果が得られるとともに、さらに、移動局側からの受信S I Rに応じて、基地局側で周波数拡散率を変更できる。

10      以上、説明したとおり、本発明によれば、サブキャリア群のスロット単位に共通パイロットシンボルと既知系列を付加する構成としたため、サブキャリア群単位にS I R算出値を精度よく得ることができる、という効果を奏する。また、サブキャリア群単位に得られるS I R算出値の合成結果に基づいて、送信装置側が送信電力の制御を行うので、受信装置側にて精度のよい受信信号品質を得ることができる、という効果を奏する。

15      つぎの発明によれば、サブキャリア単位に2スロット分の共通パイロットを用いて一次補間を行っているので、スロット内でフェージング変動の影響が無視できなくなるような高速フェージング変動の場合においても、精度よくチャネル推定が行える。これにより、既知系列部分およびデータ部分のシンボルのフェージング補償が精度良く行えることとなり、結果として、S I R推定値の精度が向上する、という効果を奏する。

20      つぎの発明によれば、サブキャリア群単位に得られるS I R算出値を合成した後に、平均化処理を行っているので、シャドウイング等のレベル変動がある場合においても、精度よくS I R算出値を得ることができる、という効果を奏する。

    つぎの発明によれば、スロット単位の平均干渉電力を推定した後に、複数スロットを用いてさらに平均化処理を行って干渉電力を算出する構成としたため、受信信号品質の指標であるS I R推定値をさらに精度良く算出することができる、という効果を奏する。

25      つぎの発明によれば、フェージング変動で信号電力が変動する場合においても、フェージング変動を考慮したS I R推定値を、精度良く算出することができる、という効果を奏する。

つぎの発明によれば、基地局が、受け取ったサブキャリア群単位のS I R情報に基づいて、サブキャリア群単位に送信電力制御を行うことができる、という効果を奏する。

5 つぎの発明によれば、フェージング変動を考慮したサブキャリア群単位のS I R情報に基づいて、サブキャリア群単位に送信電力制御を行うことができる、という効果を奏する。

つぎの発明によれば、移動局側からの受信S I Rに応じて、基地局側で情報速度を変更することが可能な構成としたため、周波数利用効率を大幅に向上させることができる、という効果を奏する。

10 つぎの発明によれば、移動局側からの受信S I Rに応じて、基地局側で周波数拡散率を変更できる、という効果を奏する。

つぎの発明によれば、サブキャリア群のスロット単位に共通パイロットシンボルと既知系列を付加する構成としたため、受信側では、サブキャリア群単位にS I R算出値を精度よく得ることができる、という効果を奏する。また、サブキャリア群単位に得られるS I R算出値の合成結果に基づいて、送信装置側が送信電力の制御を行うので、受信装置側にて精度のよい受信信号品質を得ることができる、という効果を奏する。

15

つぎの発明によれば、移動局側からの受信S I Rに応じて、基地局側で情報速度を変更することが可能な構成としたため、周波数利用効率を大幅に向上させることができる、という効果を奏する。

20

つぎの発明によれば、移動局側からの受信S I Rに応じて、基地局側で周波数拡散率を変更できる、という効果を奏する。

つぎの発明によれば、サブキャリア群単位に得られるS I R算出値の合成結果に基づいて、送信装置側が送信電力の制御を行うので、受信装置側にて精度のよい受信信号品質を得ることができる、という効果を奏する。

25

つぎの発明によれば、サブキャリア単位に2スロット分の共通パイロットを用いて一次補間を行っているので、スロット内でフェージング変動の影響が無視で

きなくなるような高速フェージング変動の場合においても、精度よくチャネル推定が行える。これにより、既知系列部分およびデータ部分のシンボルのフェージング補償が精度良く行えることとなり、結果として、S I R推定値の精度が向上する、という効果を奏する。

- 5 つぎの発明によれば、サブキャリア群単位に得られるS I R算出値を合成した後に、平均化処理を行っているので、シャドウイング等のレベル変動がある場合においても、精度よくS I R算出値を得ることができる、という効果を奏する。

- つぎの発明によれば、スロット単位の平均干渉電力を推定した後に、複数スロットを用いてさらに平均化処理を行って干渉電力を算出する構成としたため、受信信号品質の指標であるS I R推定値をさらに精度良く算出することができる、  
10 という効果を奏する。

つぎの発明によれば、フェージング変動で信号電力が変動する場合においても、フェージング変動を考慮したS I R推定値を、精度良く算出することができる、という効果を奏する。

- 15 つぎの発明によれば、基地局が、受け取ったサブキャリア群単位のS I R情報に基づいて、サブキャリア群単位に送信電力制御を行うことができる、という効果を奏する。

- つぎの発明によれば、フェージング変動を考慮したサブキャリア群単位のS I R情報に基づいて、サブキャリア群単位に送信電力制御を行うことができる、と  
20 という効果を奏する。

#### 産業上の利用可能性

- 以上のように、本発明にかかる移動体通信システム、マルチキャリアCDMA送信装置およびマルチキャリアCDMA受信装置は、周波数選択性フェージング  
25 伝送路で用いるのに適している。

## 請 求 の 範 囲

1. マルチキャリアCDMA方式を採用する移動体通信システムにおいて、送信側が、
  - 5 サブキャリア群単位に変換された送信データを用いて、サブキャリア群単位に、共通パイロット部分と受信側で信号対干渉電力比を推定するための既知系列部分とデータ部分で構成されたスロットを作成し、各スロットを所定のサブキャリア数分だけ複製して出力するスロット作成手段と、複製後の信号をサブキャリア群中のサブキャリア単位に変調する変調手段と、
    - 10 変調後のサブキャリア群中のサブキャリア信号に対して個別に周波数拡散を行う周波数拡散手段と、周波数拡散後のサブキャリア信号に対してサブキャリア群単位に送信電力制御を行う送信電力制御手段と、送信電力制御後のサブキャリア信号をサブキャリア群単位に多重化する多重化手段と、
      - 15 多重化後のサブキャリア信号に対して逆フーリエ変換処理、ガードインターバル設定処理および周波数変換処理を行うことで生成した所定の信号を伝送路上に送信する送信手段と、を備え、
        - 20 受信側が、受け取った伝送路上の信号をベースバンド信号に変換し、当該ベースバンド信号に対してフーリエ変換を行う受信手段と、フーリエ変換後の各サブキャリア信号に含まれる共通パイロット部分を抽出する共通パイロット抽出手段と、
          - 25 前記共通パイロット部分を用いてサブキャリア単位のチャネル推定値を算出するチャネル推定手段と、フーリエ変換後の各サブキャリア信号を前記抽出処理およびチャネル推定処理

に要する時間だけ遅延させる遅延手段と、

前記各チャネル推定値を用いて遅延後の各サブキャリア信号のフェージング補償を行うフェージング補償手段と、

5 フェージング補償後の各サブキャリア信号に対して周波数逆拡散を行う周波数逆拡散手段と、

周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号に含まれる既知系列部分を用いて信号対干渉電力比を推定するSIR推定手段と、

周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号を復調する復調手段と、

を備えることを特徴とする移動体通信システム。

10

2. 前記チャネル推定手段は、サブキャリア単位のチャネル推定値を算出後、さらに、当該サブキャリア単位のチャネル推定値と、次スロット入力時に算出されるサブキャリア単位のチャネル推定値と、の2つのスロット間における一次補間値を算出し、その算出結果をチャネル推定値として出力することを特徴とする

15 請求の範囲第1項に記載の移動体通信システム。

3. 前記SIR推定手段は、

前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、

予め判っている既知系列を発生する既知系列発生手段と、

20 前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分を除去する逆変調手段と、  
変調成分除去後の既知系列部分を用いて同相平均化処理を行うことで雑音成分を抑圧する第1の平均化手段と、

平均化処理後の既知系列部分を2乗することで信号電力を算出する第1の2乗手段と、

25 前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変調手段と、

前記既知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算す



る減算手段と、

減算後の信号を2乗する第2の2乗手段と、

前記第2の2乗手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第2の平均化手段と、

5 前記信号電力を前記平均干渉電力で除算する除算手段と、

サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブキャリア群数を用いて当該合成結果を平均化するサブキャリア群平均化手段と、

サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化するスロット平均化手段と、

10 を備えることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の移動体通信システム。

4. 前記SIR推定手段は、前記サブキャリア群平均化手段の出力を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第3項に記載の移動体通信システム。

15

5. 前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第3項に記載の移動体通信システム。

20 6. 前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、サブキャリア群単位に複数スロットにわたって平均化し、その平均化結果を推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第5項に記載の移動体通信システム。

25 7. 前記SIR推定手段は、

前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、

予め判っている既知系列を発生する既知系列発生手段と、

前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分を除去する逆変調手段と、  
変調成分除去後の既知系列部分を用いて同相平均化処理を行うことで雑音成分  
を抑圧する第 1 の平均化手段と、

平均化処理後の既知系列部分を 2 乗することで信号電力を算出する第 1 の 2 乗  
5 手段と、

前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変  
調手段と、

前記既知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算す  
る減算手段と、

10 減算後の信号を 2 乗する第 2 の 2 乗手段と、

前記第 2 の 2 乗手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第 2 の平  
均化手段と、

前記平均干渉電力を複数スロットにわたって平均化する第 1 のスロット平均化  
手段と、

15 前記信号電力を複数スロットにわたって平均化された平均干渉電力で除算する  
除算手段と、

サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブ  
キャリア群数を用いて当該合成結果を平均化するサブキャリア群平均化手段と、

サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化する  
20 スロット平均化手段と、

を備えることを特徴とする請求の範囲第 1 項に記載の移動体通信システム。

8. 前記 S I R 推定手段は、前記サブキャリア群平均化手段の出力を、推定信  
号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第 7 項に記載の移動体通信シ  
25 ステム。

9. 前記 S I R 推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、推定

信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第7項に記載の移動体通信システム。

10. 前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、サブキャリア群単位に複数スロットにわたって平均化し、その平均化結果を推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第9項に記載の移動体通信システム。

11. 前記変調手段は、  
10 受け取った信号対干渉電力比に応じて、BPSK, QPSK, 8PSK, 16PSK, 16QAM, 64QAM, 128QAM, 256QAMのなかから、いずれか1つの変調方式を選択することを特徴とする請求の範囲第1項に記載の移動体通信システム。

- 15 12. 前記周波数拡散手段は、  
受け取った信号対干渉電力比に応じて、適切な周波数拡散率を選択することを特徴とする請求の範囲第1項に記載の移動体通信システム。

13. サブキャリア群単位に変換された送信データを用いて、サブキャリア群単位に、共通パイロット部分と受信側で信号対干渉電力比を推定するための既知系列部分とデータ部分で構成されたスロットを作成し、各スロットを所定のサブキャリア数分だけ複製して出力するスロット作成手段と、

- 複製後の信号をサブキャリア群中のサブキャリア単位に変調する変調手段と、  
変調後のサブキャリア群中のサブキャリア信号に対して個別に周波数拡散を行う周波数拡散手段と、  
25

周波数拡散後のサブキャリア信号に対してサブキャリア群単位に送信電力制御を行う送信電力制御手段と、

送信電力制御後のサブキャリア信号をサブキャリア群単位に多重化する多重化手段と、

多重化後のサブキャリア信号に対して逆フーリエ変換処理、ガードインターバル設定処理および周波数変換処理を行うことで生成した所定の信号を伝送路上に

5 送信する送信手段と、

を備えることを特徴とするマルチキャリアCDMA送信装置。

1 4. 前記変調手段は、

受け取った信号対干渉電力比に応じて、BPSK, QPSK, 8PSK, 16  
10 PSK, 16QAM, 64QAM, 128QAM, 256QAMのなかから、い  
ずれか1つの変調方式を選択することを特徴とする請求の範囲第13項に記載の  
マルチキャリアCDMA送信装置。

1 5. 前記周波数拡散手段は、

15 受け取った信号対干渉電力比に応じて、適切な周波数拡散率を選択することを  
特徴とする請求の範囲第13項に記載のマルチキャリアCDMA送信装置。

1 6. 受け取った伝送路上の信号をベースバンド信号に変換し、当該ベースバ  
ンド信号に対してフーリエ変換を行う受信手段と、

20 フーリエ変換後の各サブキャリア信号に含まれる共通パイロット部分を抽出す  
る共通パイロット抽出手段と、

前記共通パイロット部分を用いてサブキャリア単位のチャネル推定値を算出す  
るチャネル推定手段と、

フーリエ変換後の各サブキャリア信号を前記抽出処理およびチャネル推定処理  
25 に要する時間だけ遅延させる遅延手段と、

前記各チャネル推定値を用いて遅延後の各サブキャリア信号のフェージング補  
償を行うフェージング補償手段と、

フェージング補償後の各サブキャリア信号に対して周波数逆拡散を行う周波数逆拡散手段と、

周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号に含まれる既知系列部分を用いて信号対干渉電力比を推定するSIR推定手段と、

- 5 周波数逆拡散後のサブキャリア群の信号を復調する復調手段と、  
を備えることを特徴とするマルチキャリアCDMA受信装置。

17. 前記チャンネル推定手段は、サブキャリア単位のチャンネル推定値を算出後、さらに、当該サブキャリア単位のチャンネル推定値と、次スロット入力時に算出されるサブキャリア単位のチャンネル推定値と、の2つのスロット間における一次補間値を算出し、その算出結果をチャンネル推定値として出力することを特徴とする請求の範囲第16項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。
- 10

18. 前記SIR推定手段は、
- 15 前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、  
予め判っている既知系列を発生する既知系列発生手段と、  
前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分を除去する逆変調手段と、  
変調成分除去後の既知系列部分を用いて同相平均化処理を行うことで雑音成分を抑圧する第1の平均化手段と、
- 20 平均化処理後の既知系列部分を2乗することで信号電力を算出する第1の2乗手段と、

前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変調手段と、

- 前記既知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算する減算手段と、
- 25

減算後の信号を2乗する第2の2乗手段と、

前記第2の2乗手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第2の平

均化手段と、

前記信号電力を前記平均干渉電力で除算する除算手段と、

サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブキャリア群数を用いて当該合成結果を平均化するサブキャリア群平均化手段と、

- 5      サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化するスロット平均化手段と、

を備えることを特徴とする請求の範囲第16項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。

- 10      19.    前記SIR推定手段は、前記サブキャリア群平均化手段の出力を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第18項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。

- 15      20.    前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第18項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。

- 20      21.    前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、サブキャリア群単位に複数スロットにわたって平均化し、その平均化結果を推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第20項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。

- 25      22.    前記SIR推定手段は、  
前記既知系列部分を抽出する既知系列抽出手段と、  
予め判っている既知系列を発生する既知系列発生手段と、  
前記既知系列を利用して前記既知系列部分の変調成分を除去する逆変調手段と、  
変調成分除去後の既知系列部分を用いて同相平均化処理を行うことで雑音成分

を抑圧する第1の平均化手段と、

平均化処理後の既知系列部分を2乗することで信号電力を算出する第1の2乗手段と、

5 前記既知系列と平均化処理後の既知系列部分とを用いて再変調処理を行う再変調手段と、

前記既知系列抽出手段にて抽出した既知系列部分から再変調後の信号を減算する減算手段と、

減算後の信号を2乗する第2の2乗手段と、

10 前記第2の2乗手段出力の信号を用いて干渉電力の平均化処理を行う第2の平均化手段と、

前記平均干渉電力を複数スロットにわたって平均化する第1のスロット平均化手段と、

前記信号電力を複数スロットにわたって平均化された平均干渉電力で除算する除算手段と、

15 サブキャリア群単位に得られる前記除算結果を合成し、合成時に使用したサブキャリア群数を用いて当該合成結果を平均化するサブキャリア群平均化手段と、

サブキャリア群数による平均化後の信号を複数スロットにわたって平均化するスロット平均化手段と、

20 を備えることを特徴とする請求の範囲第16項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。

25

23. 前記SIR推定手段は、前記サブキャリア群平均化手段の出力を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第22項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。

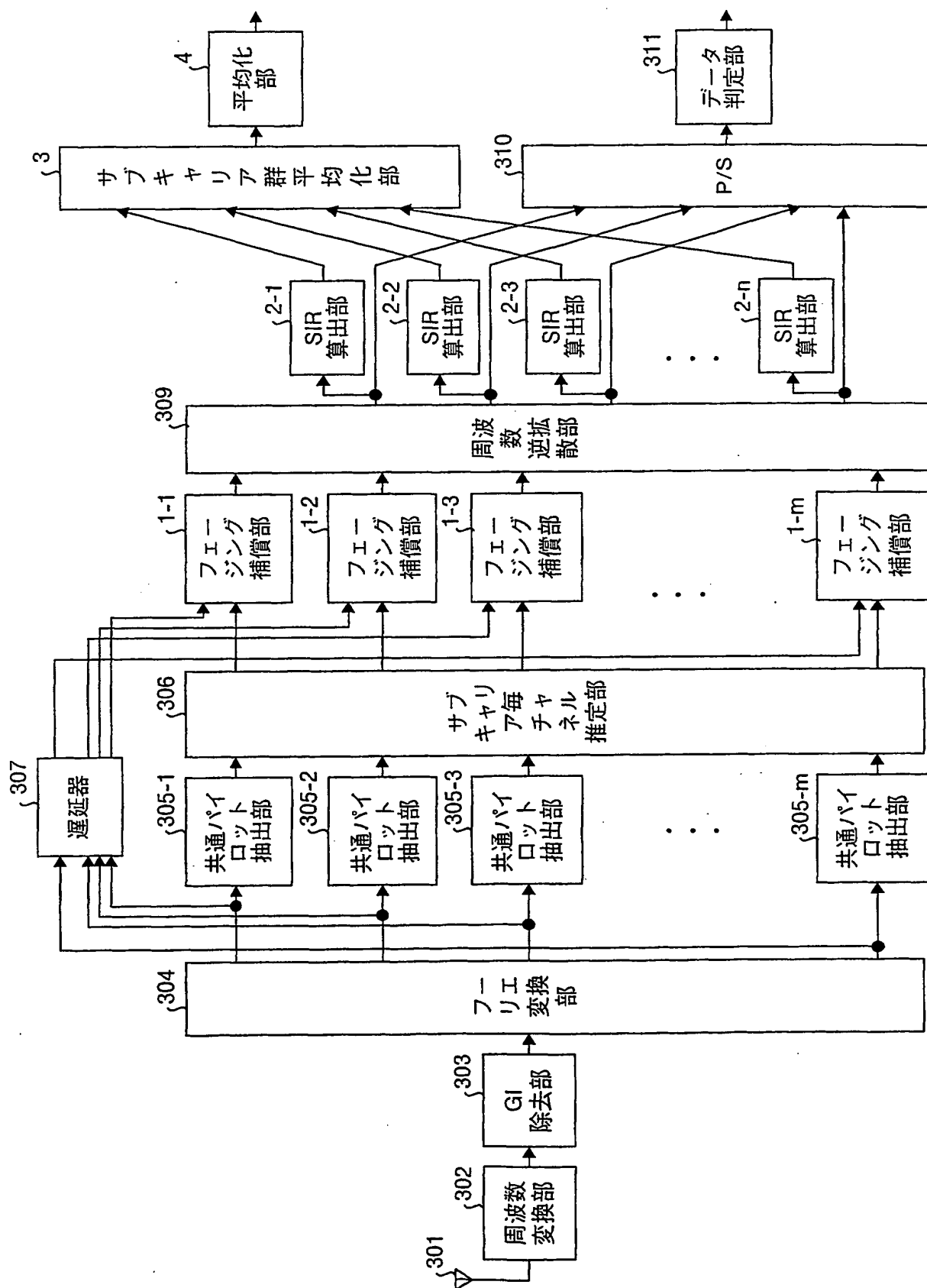
24. 前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第22項に記載のマルチ

キャリアCDMA受信装置。

25. 前記SIR推定手段は、サブキャリア群単位に得られる除算結果を、サブキャリア群単位に複数スロットにわたって平均化し、その平均化結果を推定信号対干渉電力比とすることを特徴とする請求の範囲第24項に記載のマルチキャリアCDMA受信装置。
- 5

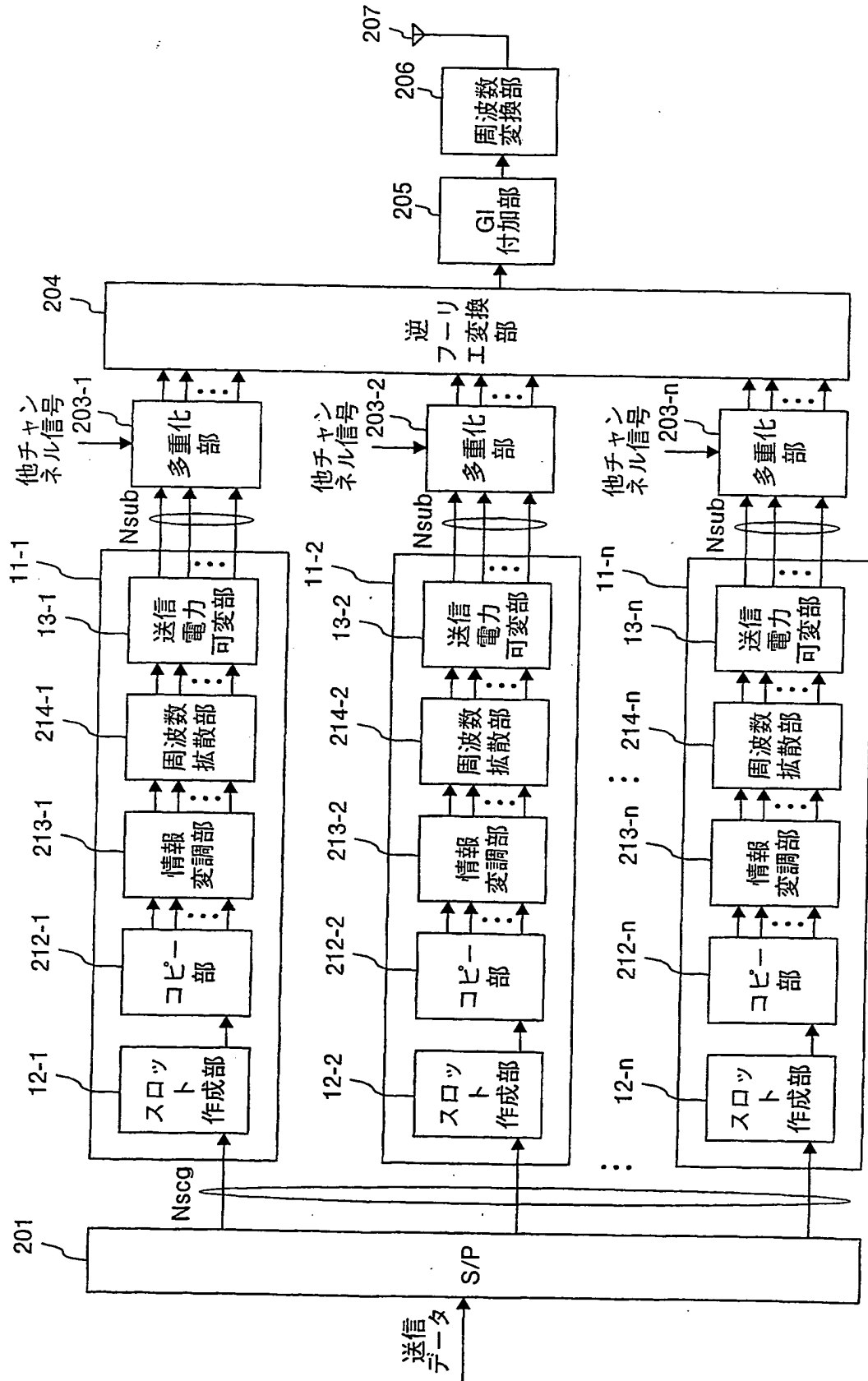


第1図

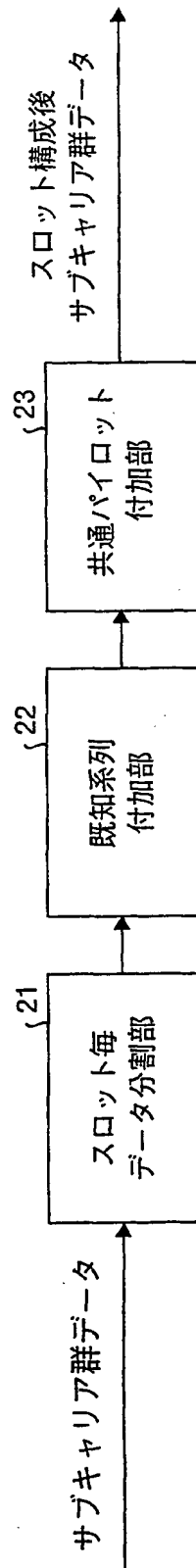


2/19

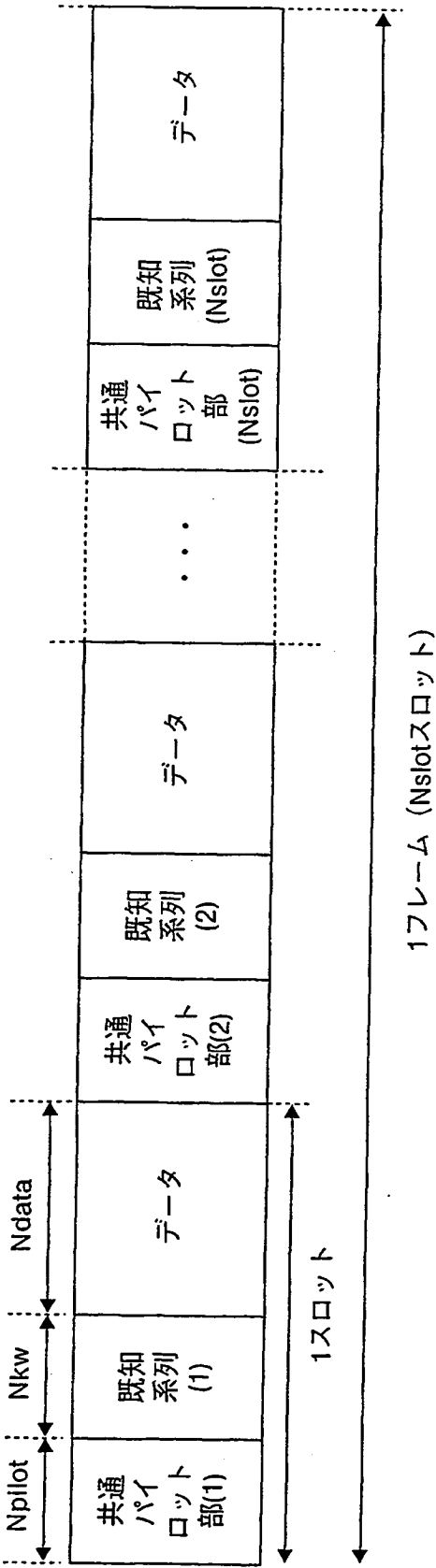
第2図



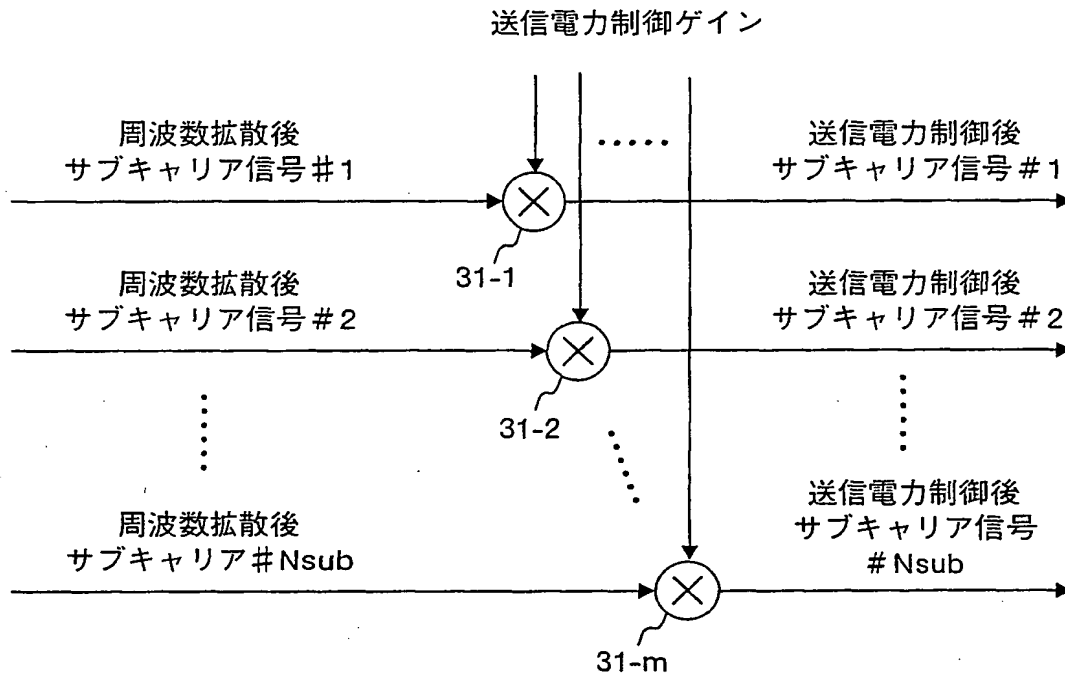
第3図



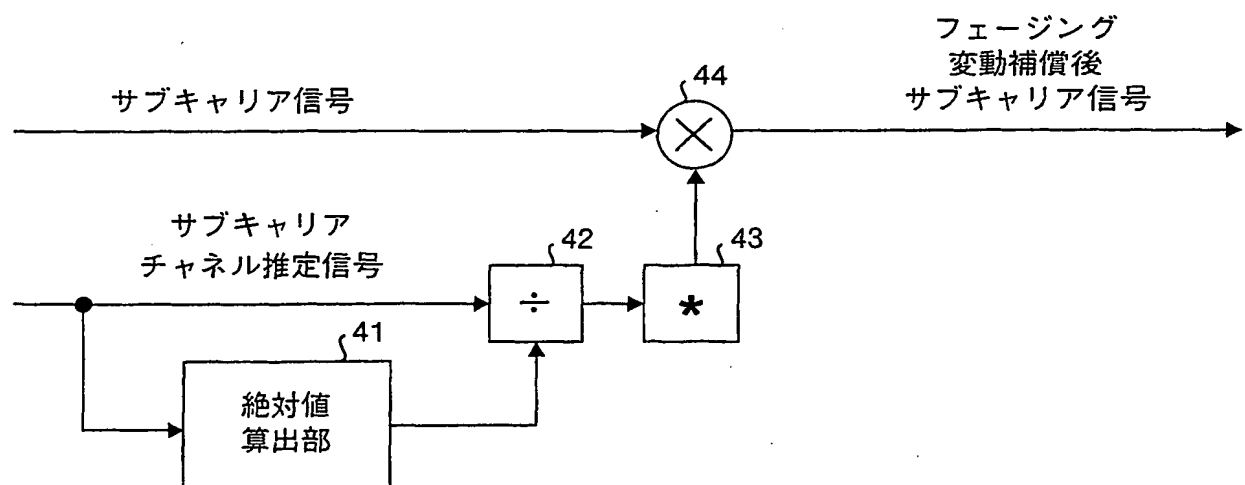
第4図



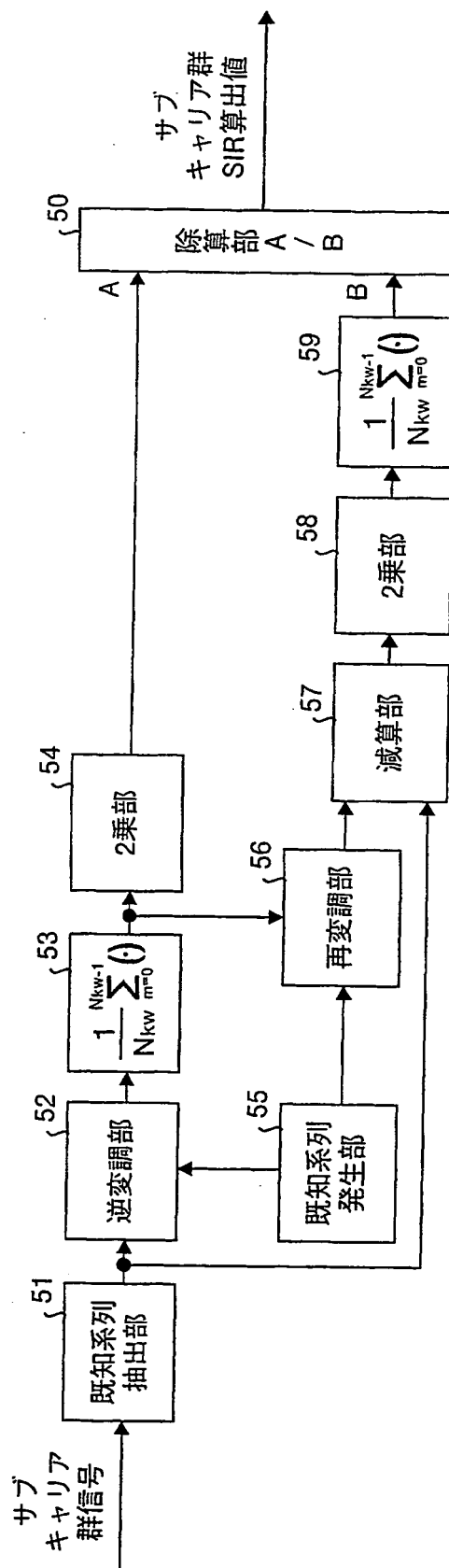
## 第5図



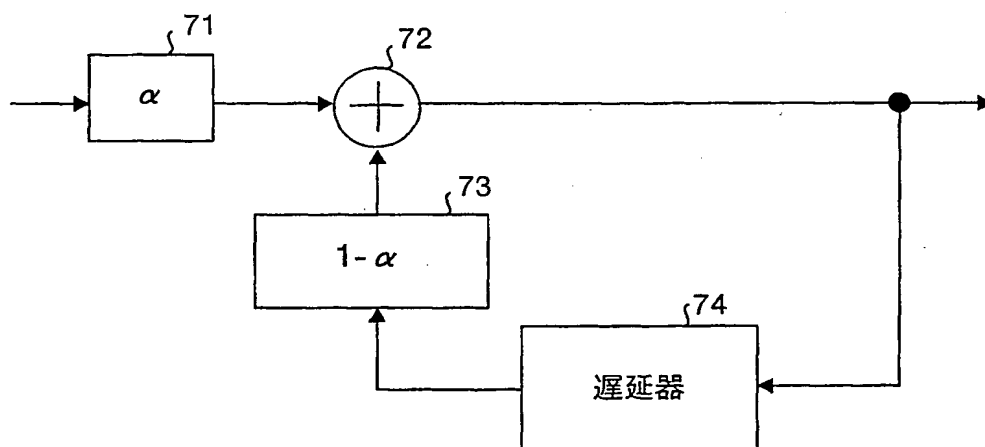
## 第6図



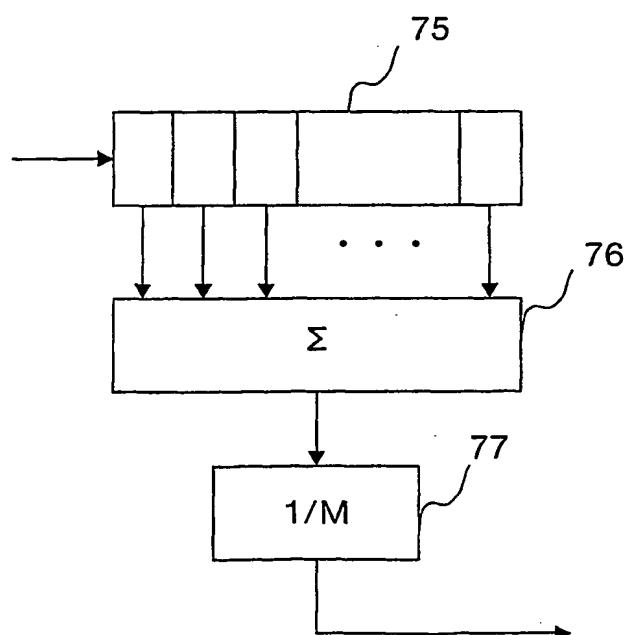
第7図



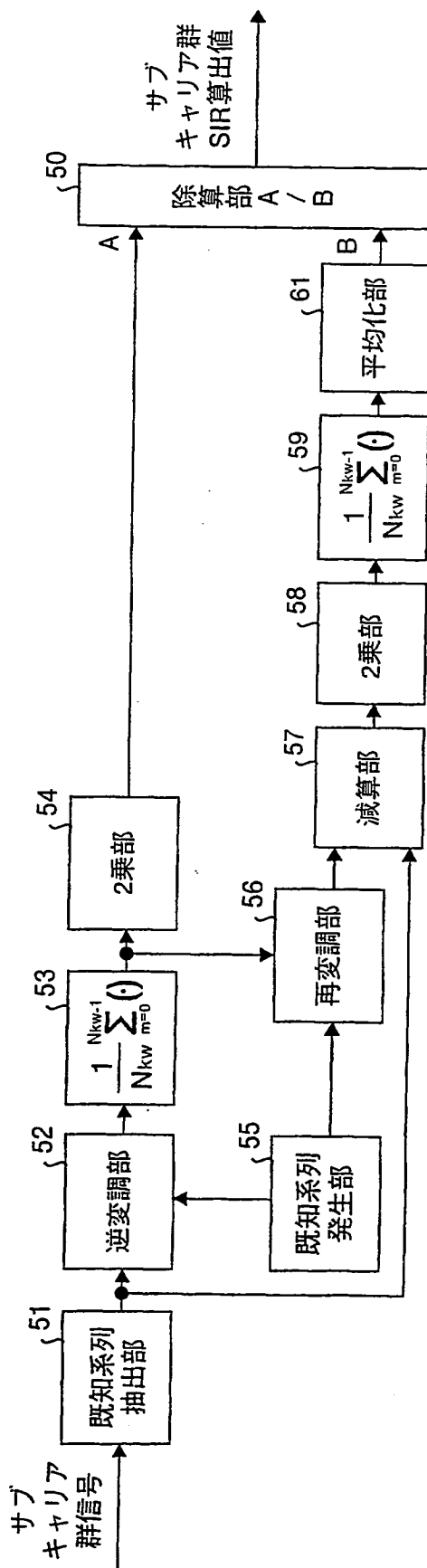
第 8 図



第 9 図

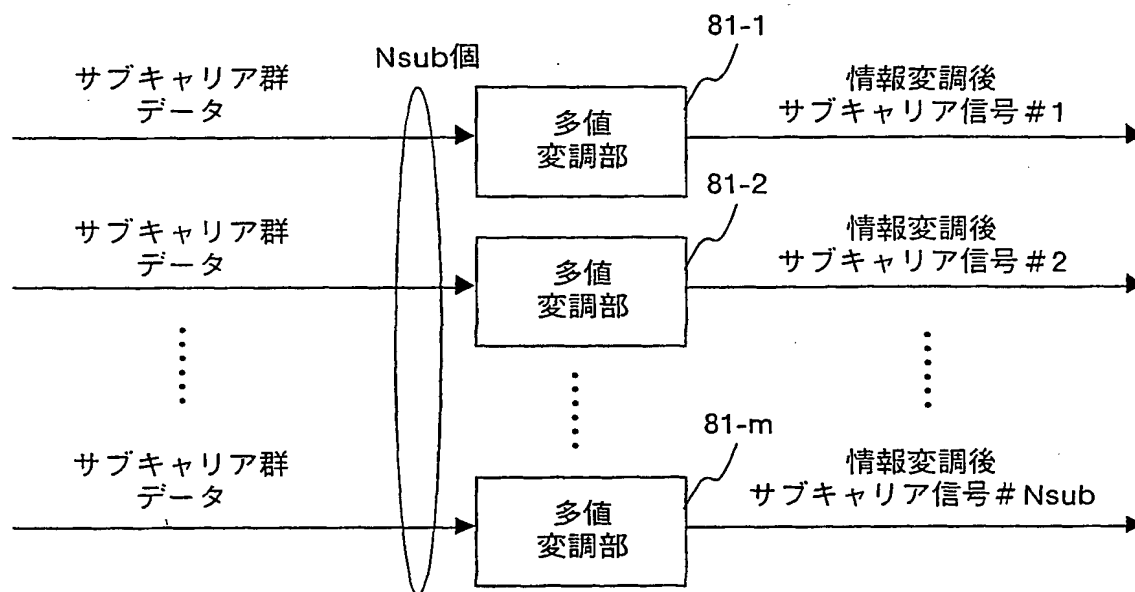


第10図

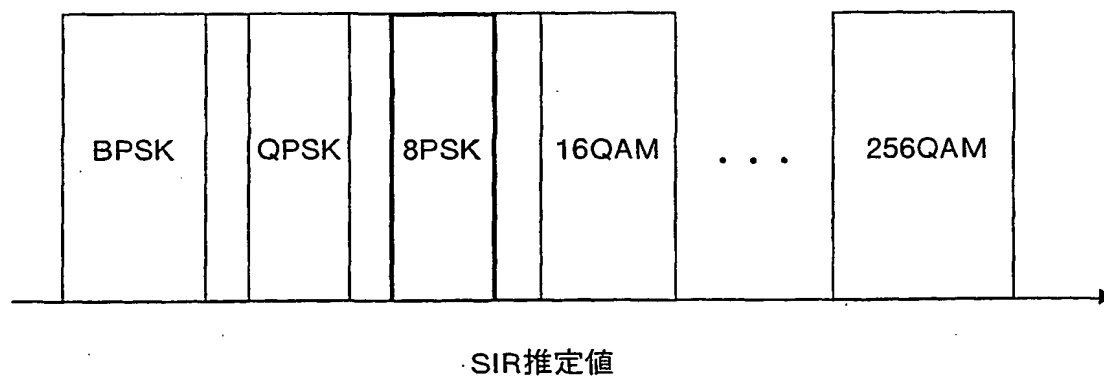




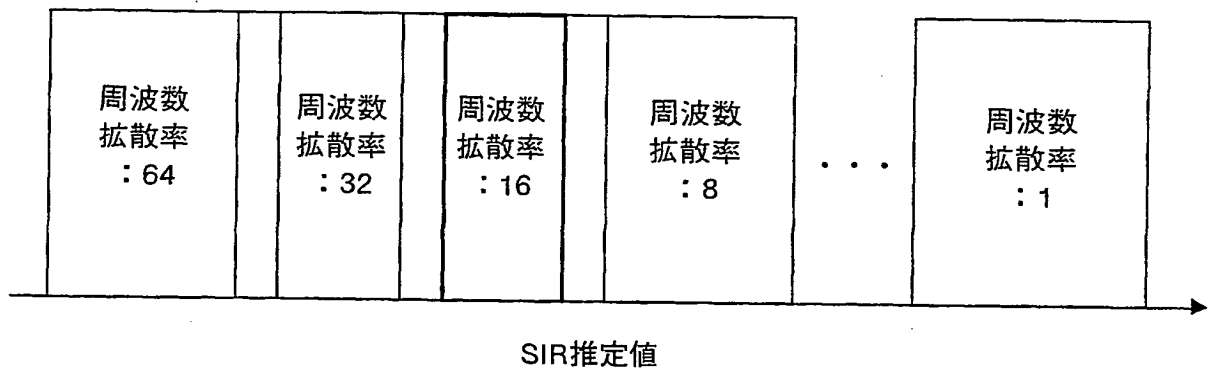
## 第11図



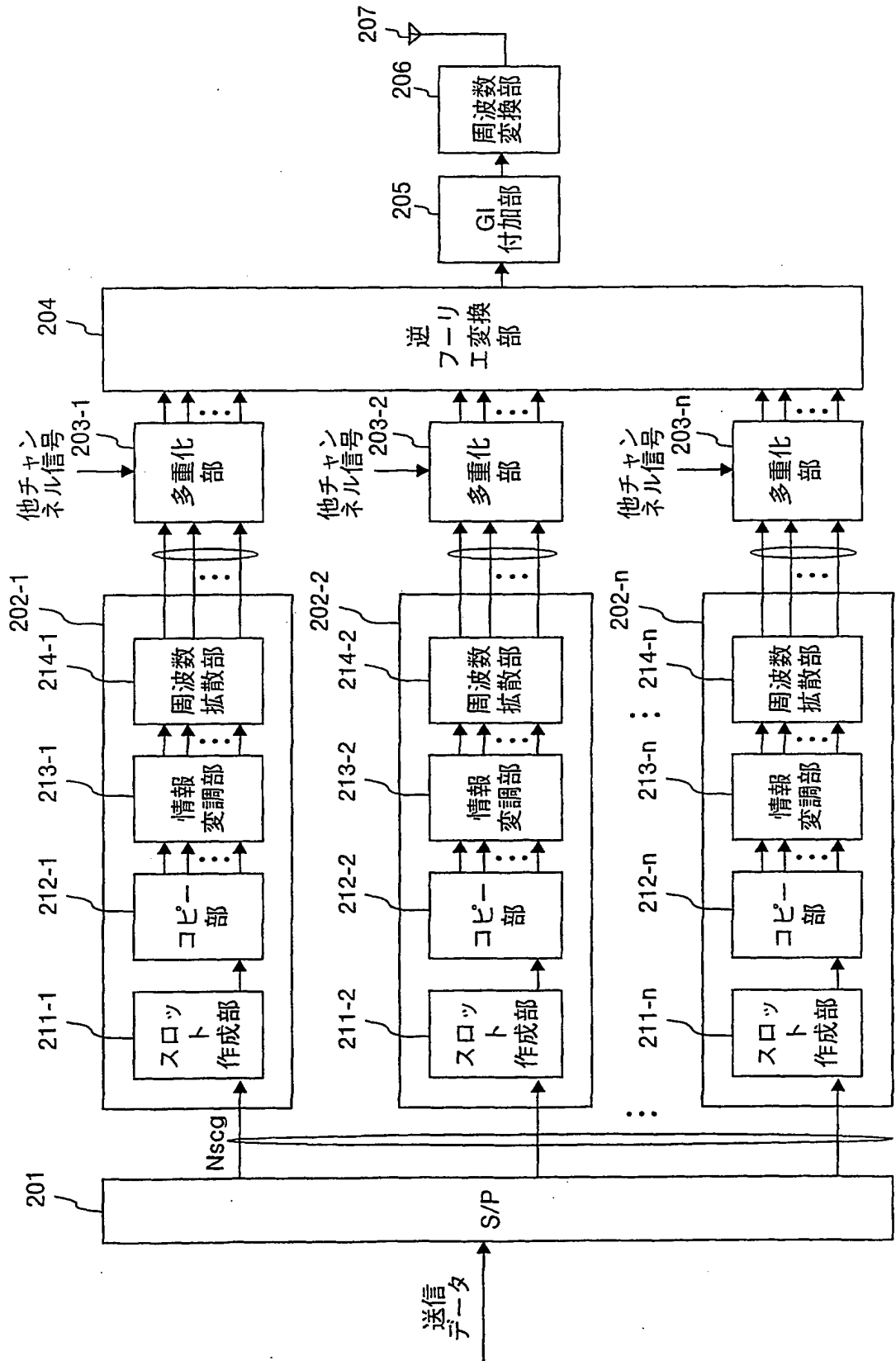
## 第12図



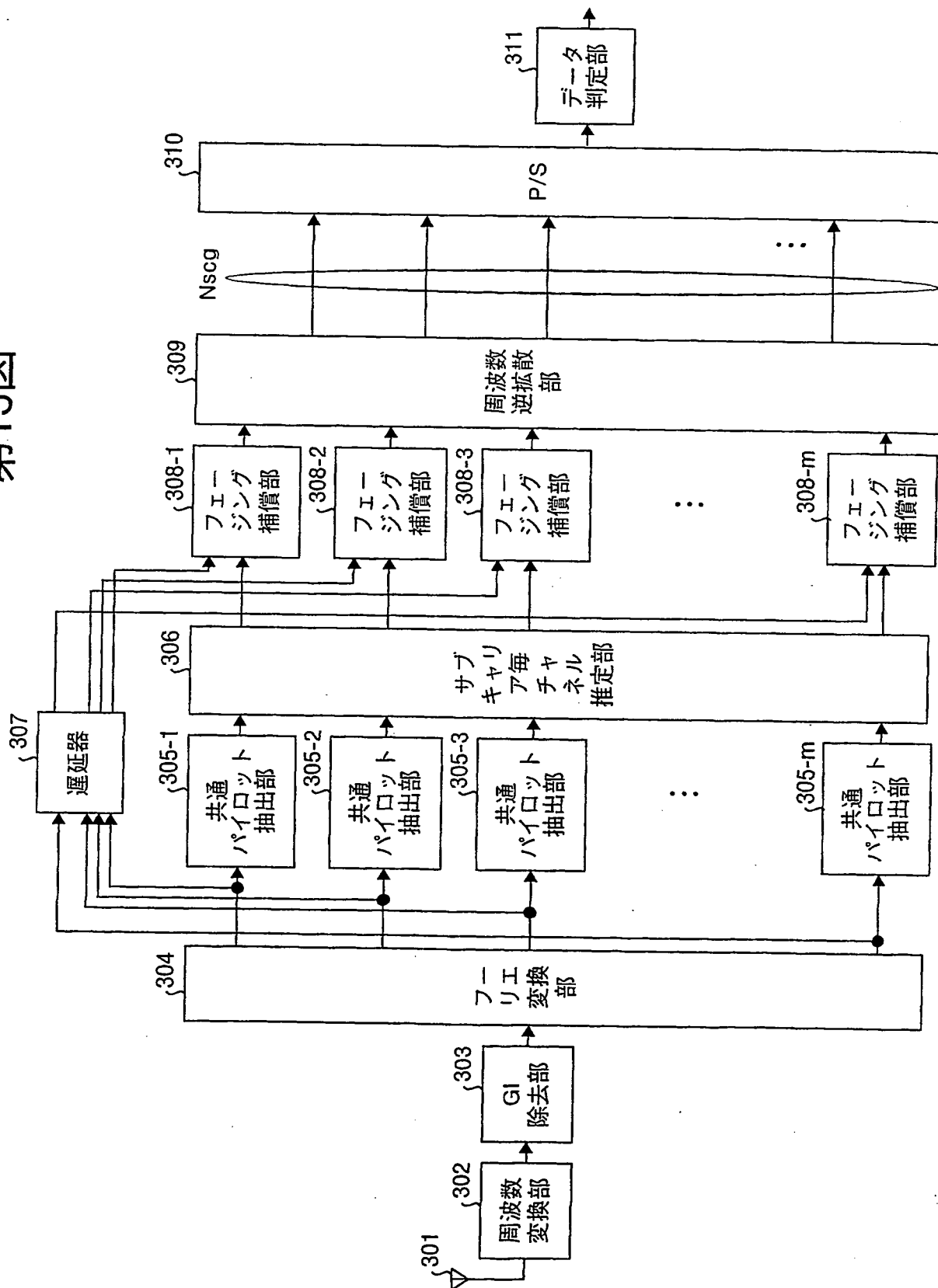
## 第13図



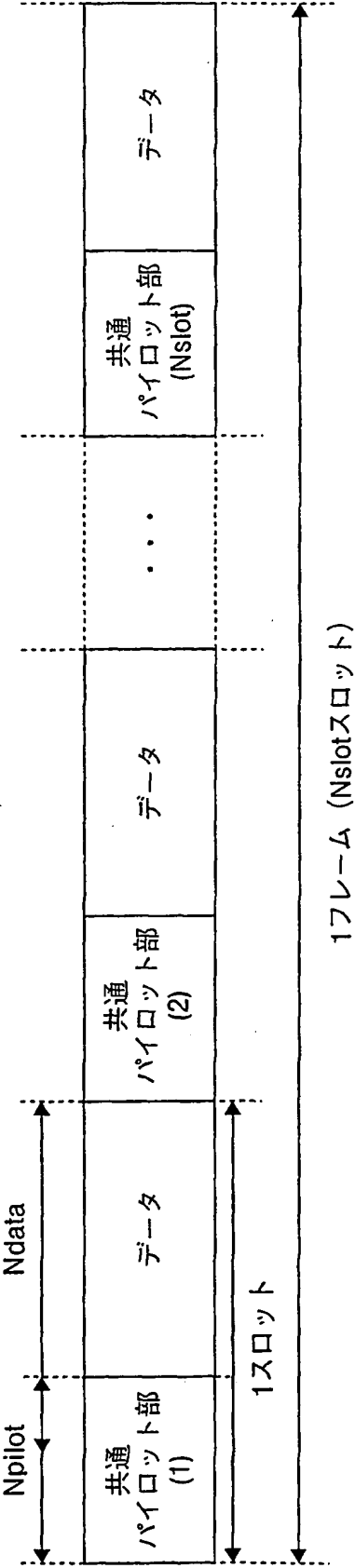
第14図



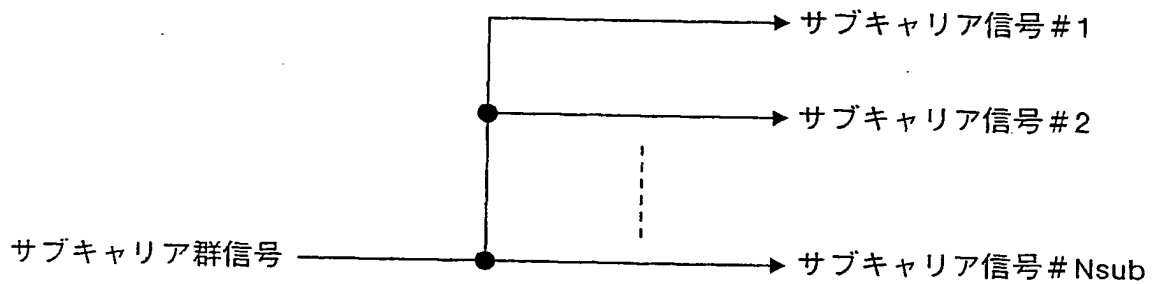
第15図



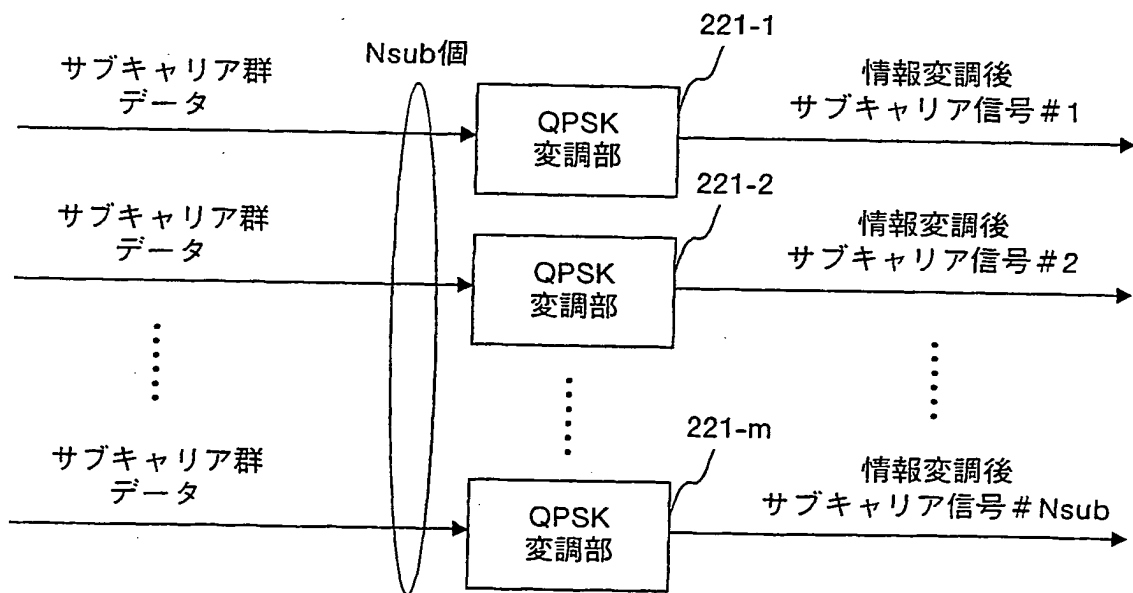
第16図



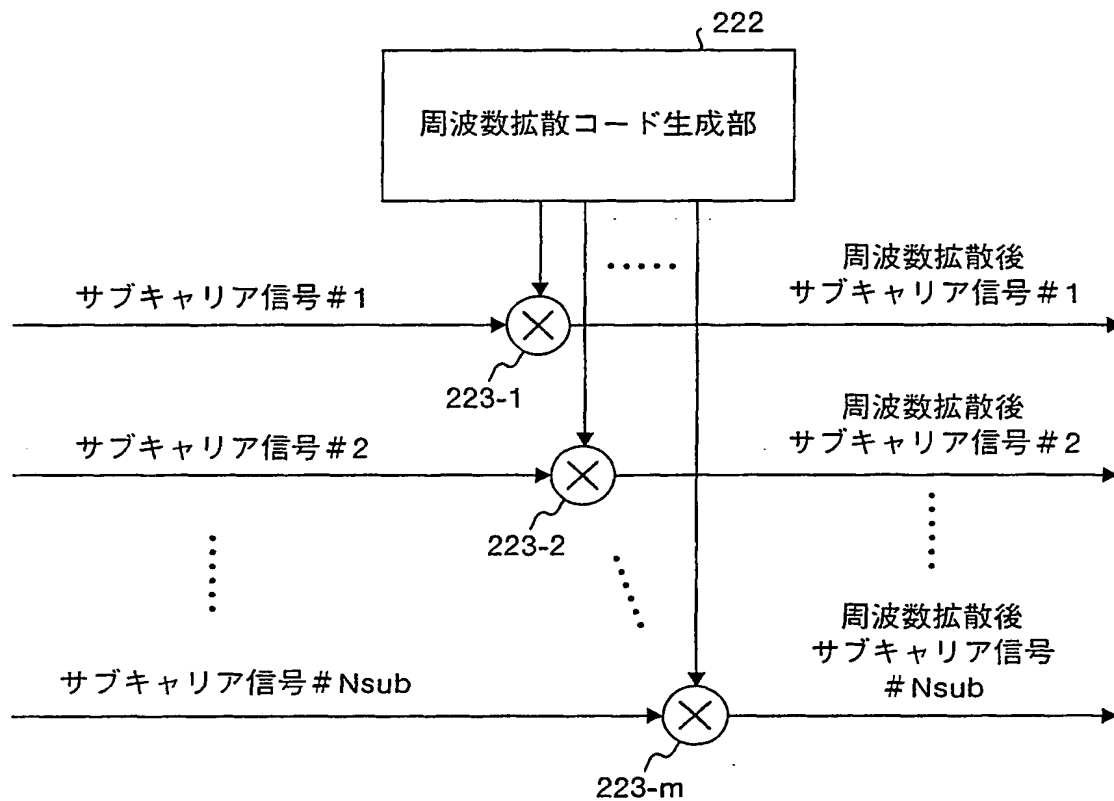
## 第17図



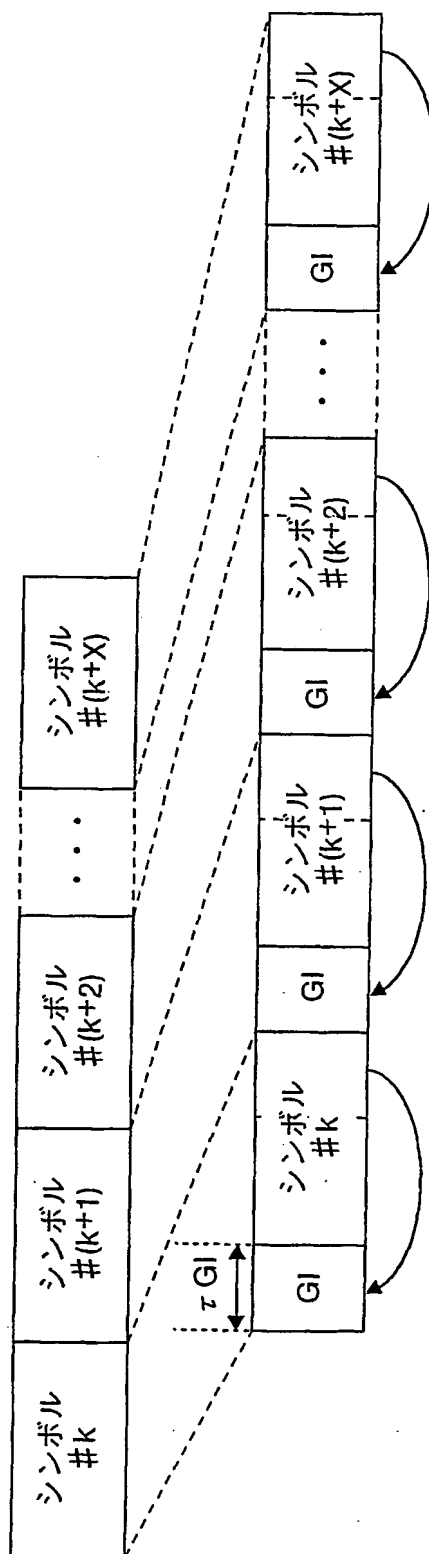
## 第18図



## 第19図

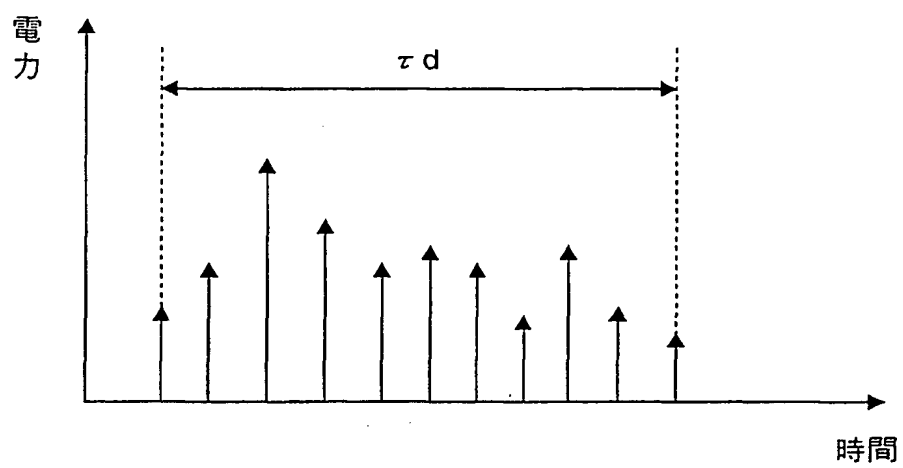


第20図



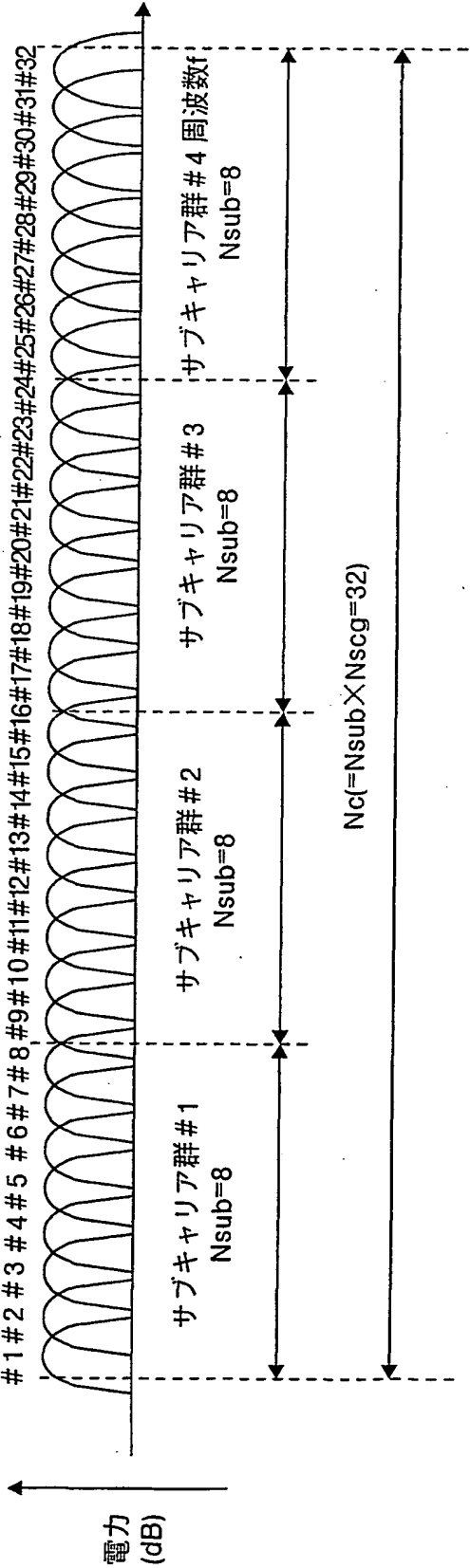


第21図

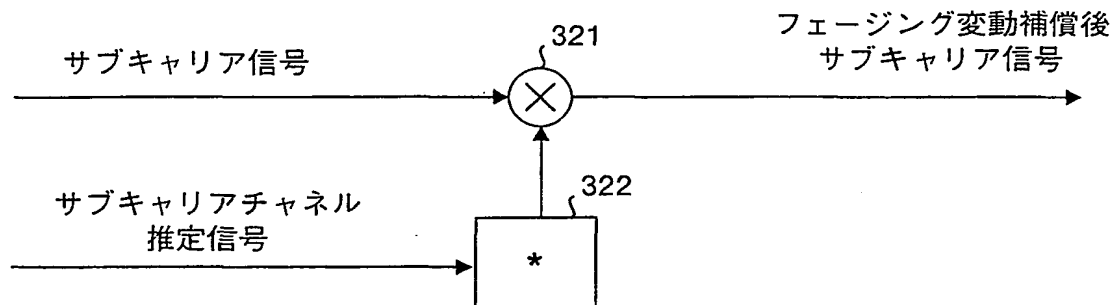


第22図

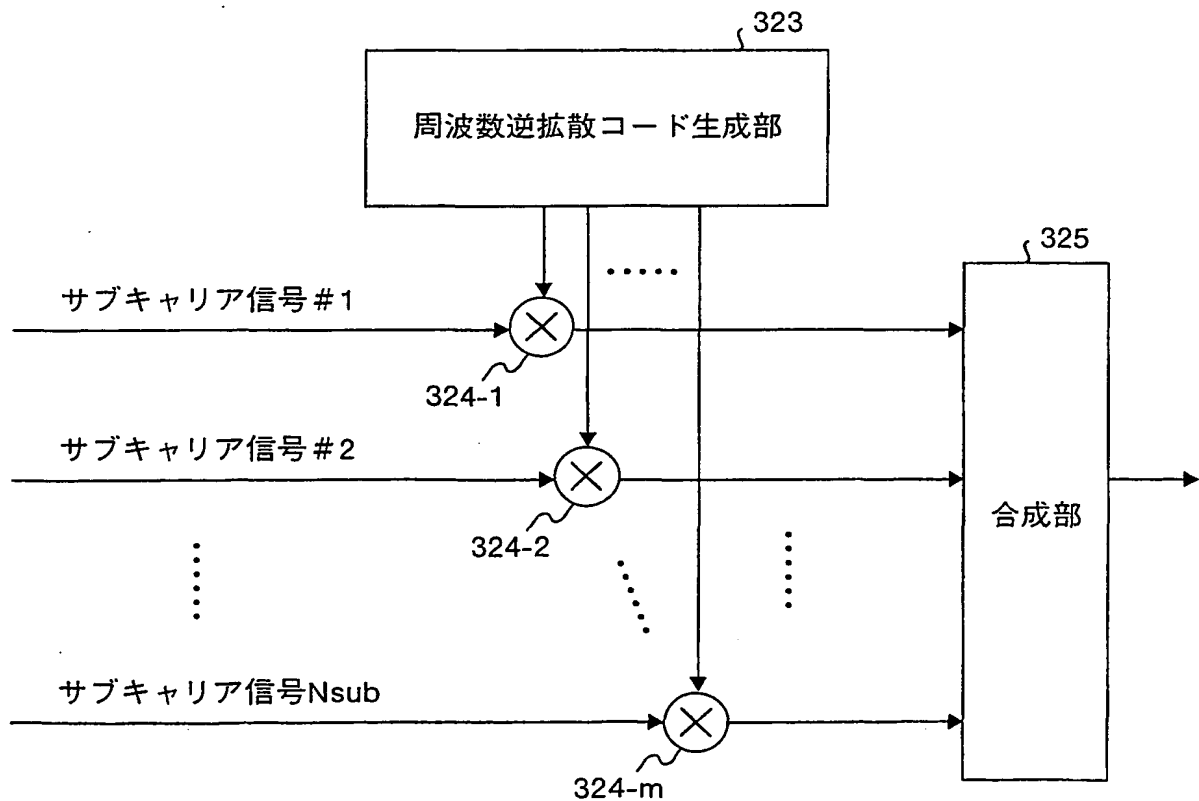
$N_{scg}=4$



## 第23図



## 第24図



## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP02/01245

## A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl<sup>7</sup> H04J11/00, H04J13/04

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl<sup>7</sup> H04J11/00, H04J13/04

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1926-2000

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2000

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Hiroyuki ARATA, Sadayuki ABETA, Kyohei SAWA, "Tachi Hencho to Hybride ARQ o Mochiita Broadband Packet TD-OFCDM Kudari Kosoku Denso" The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers, Gijutsu Kenkyu Hokoku, The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers, Vol.100, No.435, 17 November, 2000 (17.11.00), pages 57 to 62	1-25

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.
 ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"I" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search 10 May, 2002 (10.05.02)	Date of mailing of the international search report 21 May, 2002 (21.05.02)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office	Authorized officer
Facsimile No.	Telephone No.

Form PCT/ISA/210 (second sheet) (July 1998)

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP02/01245

## C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Sadayuki ABETA, Yukihiro ARATA, Kyoei SAWA, Fumiyuki ADACHI, "Kudari Link Broadband Musen Paket Denso ni okeru SC/DS-CDMA, MC/DS-CDMA, MC-CDMA Hosiki no Tokusei Hikaku", The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers, Gijutsu Kenkyu Hokoku, The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers, Vol.99, No.357, 15 October, 1999 (15.10.99), pages 63 to 70	1-25
A	WO 99/01956 A (Advanced Digital Television Broadcasting Laboratory), 14 January, 1999 (14.01.99), Figs. 9, 10 & CN 1231089 A & KR 2000068380 A & TW 443059 A	1-25
E, A	EP 1128592 A2 (NTT DoCoMo, Inc.), 29 August, 2001 (29.08.01), Figs. 2, 21 & JP 2001-237803 A & JP 2001-268048 A & US 20010028637 A1 & CA 2335225 A1 & AU 200121217 A & CN 1324159 A & KR 2001085385 A	1-25

Form PCT/ISA/210 (continuation of second sheet) (July 1998)

## A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> H04J11/00Int. Cl<sup>7</sup> H04J13/04

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> H04J11/00Int. Cl<sup>7</sup> H04J13/04

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1926-2000

日本国公開実用新案公報 1971-2000

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	新博行、安部田貞行、佐和橋衛, “多値変調とハイブリッドARQを用いたブロードバンドパケットTD-OFCDM下り高速伝送”, 電子情報通信学会技術研究報告, 社団法人電子情報通信学会, Vol. 100, No. 435, 2000. 11. 17, p. 57-62	1-25

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&amp;」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

10.05.02

国際調査報告の発送日

21.05.02

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

高野 洋



5K

9647

電話番号 03-3581-1101 内線 3555

## C (続き) . 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	安部田貞行、新博行、佐和橋衛、安達文幸, “下りリンクブロードバンド無線パケット伝送におけるSC/DS-CDMA, MC/DS-CDMA, MC-CDMA方式の特性比較”, 電子情報通信学会技術研究報告, 社団法人電子情報通信学会, Vol. 99, No. 357, 1999. 10. 15, p. 63-70	1-25
A	WO 99/01956 A (株式会社次世代デジタルテレビジョン放送システム研究所), 1999. 01. 14, FIG. 9, FIG. 10 & CN 1231089 A & KR 2000068380 A & TW 443059 A	1-25
E, A	EP 1128592 A2 (NTT DoCoMo, Inc.), 2001. 08. 29, FIG. 2, FIG. 21 & JP 2001-237803 A & JP 2001-268048 A & US 20010028637 A1 & CA 2335225 A1 & AU 200121217 A & CN 1324159 A & KR 2001085385 A	1-25

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**